

【第1号議案】(報告事項)

令和3年度事業報告に関する件 (令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

I. 事業の状況

熊井真次新会長のもと、新型コロナウイルス感染症対策を継続し、創立70周年記念事業、例年の学会活動・事業をオンラインにより実施するとともに、創立100周年に向け、長期的な課題・ビジョンについて検討を開始した。創立70周年記念事業では4月に特設WEBサイトを開設し、記念ロゴ、写真年表形式の学会70年の歩み、記念事業計画を掲載した。11月にはオンライン式典・表彰式を実施し、会誌「軽金属」11月特集号を発行した。12月には軽金属学会70年史の小冊子を発行した。この他、企画委員会、男女共同参画委員会、各支部で記念イベントを実施した。会員管理システム更新により、年齢区分に応じた会費請求、会員マイページ機能充実、会員情報・会誌送付要否の自己更新、年会費クレジット決済など会員サービスを拡張した。2022年9月開催予定のICAA(International Conference on Aluminium Alloys: アルミニウム合金国際会議)18はハイブリッド開催に計画変更し、300件を超える講演申込に対して、査読、プログラム編成の準備、Mater. Trans.投稿対応準備、講演・展示のハイブリッド開催方式について検討を行った。総合計画委員会では長期ビジョンや会員増強を目的とする軽金属学会が扱う学術・技術範囲の拡張について検討を開始した。総務委員会の人材育成事業では中高生向けの企画として大学オープンキャンパスへの軽金属製品供与・賞与事業や学生会員の就職支援事業の「ライトメタルリクルート」WEBサイト運営を継続し、研究室紹介WEBサイトを更新した。男女共同参画委員会では、パネルディスカッション「軽金属業界におけるダイバーシティの現状と課題」を開催し、令和4年度春期大会での男女共同参画セッション「『男性学』から考える仕事と家庭、仕事と育児の両立」を企画した。国際交流委員会では、「環境、エネルギー、持続可能な開発」をテーマとするALMA(Asian Light Metals Association) Forum 2022 & Meetingのオンライン開催を企画した。大会運営委員会ではオンライン開催した春秋大会で、会長挨拶、学会賞記念講演、2部制ポスターセッション、Remo、Zoom ブレークアウトルームを利用したオンライン懇親会、大会WEBサイト改善などを実施した。研究委員会は14部会が研究開発活動を展開するとともに、日本アルミニウム協会の「アルミニウム技術戦略ロードマップ2022」のテクニカルロードマップに対応するサイエンスロードマップを作成した。編集委員会は論文・解説記事投稿数増加策を検討した。企画委員会は開催延期していたシンポジウム、セミナーをオンライン開催に切り替え、実施した。

[1]研究会、学術講演会等の開催(定款第4条第1項第1号)

1. 春秋講演大会の開催

1)第140回春期大会 新型コロナ感染症対策により、オンライン開催とした。

会期	: 令和3年5月14-16日	
会場	: ホテル札幌サンプラザ	5月15-16日オンライン開催
実行委員長	: 高橋英徳(北海道立総合研究機構)	
定時総会	: 令和3年5月14日	日本アルミニウム協会会議室にてWEB開催
研究発表講演	: 令和3年5月15-16日	オンライン開催137件発表
ポスターセッション	: 令和3年5月15日	オンライン開催 59件発表(日本語57件、英語2件)
表彰式	: 令和3年5月14日	中止
懇親会	: 令和3年5月15日	中止 Remo利用オンライン開催
機器・カタログ展示	: 令和3年5月15-16日	オンライン開催 4社
軽金属企業研究会	: 令和3年5月15日	オンライン開催 12社

2)第141回秋期大会 新型コロナ感染症対策により、オンライン開催とした。

会期	: 令和3年11月12-14日	
会場	: 山梨大学 甲府キャンパス	11月13-14日オンライン開催
実行委員長	: 中山栄浩(山梨大学)	
研究発表講演	: 令和3年11月13-14日	オンライン開催134件発表
ポスターセッション	: 令和3年11月13日	オンライン開催 71件発表(日本語68件、英語3件)
表彰式	: 令和3年11月12日	中止
懇親会	: 令和3年11月13日(山梨大学 生協食堂)	中止 Zoom利用オンライン開催 講演会: ワインを嗜む - ワインを科学しましょう
機器・カタログ展示	: 令和3年11月13-14日	オンライン開催 4社参加
軽金属企業研究会	: 令和3年11月13-14日	オンライン開催 13社参加

2. シンポジウム、セミナー等の開催

	名 称	開催令和年月日	開催場所	参加者数
1	第115回シンポジウム「アルミニウム合金の連続鋳造技術」	3年4月9日	貸会議室 内海	39名
2	第114回シンポジウム「アルミ板材の冷間成形 CAE の高精度化と自動車への適用」	3年6月11日	WEB開催	31名

3	第 116 回シンポジウム「構造材料のための表面処理と腐食防食」	3 年 8 月 27 日	WEB 開催	37 名
4	無意識のバイアス研修会	3 年 9 月 29 日	WEB 開催	28 名
5	第 33 回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織—中級編(時効析出)」第 9 回	3 年 10 月 1 日	WEB 開催	23 名
6	第 34 回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織—応用編(加工・熱処理による組織変化)」第 7 回	3 年 10 月 22 日	WEB 開催	33 名
7	パネルディスカッション 「軽金属業界におけるダイバーシティの現状と課題」	3 年 11 月 11 日	WEB 開催	55 名
8	第 117 回シンポジウム「マグネシウム合金の接合技術」	3 年 11 月 25 日	WEB 開催	25 名
9	軽金属基礎技術講座「アルミニウムの製造技術」	3 年 11 月 25、26 日	つま恋リゾート彩の郷	30 名
10	第 32 回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織 — 入門編(状態図と組織)」第 11 回	3 年 12 月 17 日	WEB 開催	32 名
11	第 118 回シンポジウム「押し寄せるオンライン化」	4 年 1 月 18 日	WEB 開催	59 名
12	第 33 回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織—中級編(時効析出)」第 10 回	4 年 1 月 28 日	WEB 開催	27 名
13	第 34 回軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織—応用編(加工・熱処理による組織変化)」第 8 回	4 年 2 月 25 日	WEB 開催	25 名
14	第 119 回シンポジウム「マルチマテリアル接合」	4 年 3 月 8 日	WEB 開催	51 名
15	第 120 回シンポジウム「カーボンニュートラルに向けたモビリティの動向とそれに伴う熱マネジメント」	4 年 3 月 10 日	WEB 開催	115 名
16	第 121 回シンポジウム「飲料用缶の現状と将来」	4 年 3 月 17 日	WEB 開催	39 名
17	第 122 回シンポジウム「最新のチタン材料技術と製品への応用」～さまざまな分野で活躍が期待されるチタン	4 年 3 月 23 日	WEB 開催	50 名
18	第 35 回軽金属セミナー「マグネシウム合金の基礎技術」第 4 回	4 年 3 月 25 日	WEB 開催	41 名

[2]国内外における研究協力・連携の推進(定款第 4 条第 1 項第 2 号)

1. 国際交流

1)ICAA(International Conference on Aluminium Alloys)18

対面開催を計画したが、講演申込件数確保のため、ハイブリッド開催に変更し、実行委員会の会場・講演会・バンケット WG に、WEB プラットフォーム SWG、プログラム開催時間帯検討 SWG を追加して、以下日程に合わせ、ハイブリッド開催の準備を行った。300 件を超える講演申込、120 件を超える Materials Transactions ICAA18 特集投稿希望があった。

2021 年 12 月 1 日	講演申込(300 ワードアブストラクトのオンライン提出)締切 1 月 10 日に延長
2022 年 1 月 16 日-31 日	採択通知
2022 年 5 月 31 日	1 ページアブストラクトのオンライン提出締切(必須)
2022 年 5 月 31 日	Materials Transactions 特集論文原稿投稿締切(任意)
2022 年 5 月 31 日	早期参加登録締切
2022 年 6 月 30 日	展示、工場見学、エクスカーション申込締切
2022 年 9 月 1 日	1 ページアブストラクト集ダウンロード開始
2022 年 9 月 4 日-8 日	ICAA18 開催
2022 年 12 月 1 日	Materials Transactions ICAA18 特集 電子版 発行

2)ALMA (Asian Light Metals Association) Forum 2022 & Meeting

令和 4 年 11 月 11 日-13 日に東京工業大学大岡山キャンパスにて開催される第 143 回秋期大会と同時開催を準備し、韓国、中国、台湾、オーストラリアの各国後援団体との MOU 締結を計画したが、最終的に新型コロナウイルス感染症の内外状況よりオンライン開催への変更を決定した。

3)第21回軽金属国際ワークショップ

9月24日-10月8日に富山大学第7回先端材料研究フォーラムの共催行事として第21回軽金属国際ワークショップを開催した。国内外から12件のオンライン講演を実施。

2. 産学官の連携

参与会を2回開催計画したが、7月7日の第1回株式会社IHIの「つなぐラボ」、「IHIグループ横浜ラボ」見学会はコロナの影響で再度延期した。第2回は11月24日にWEB開催により、「カーボンニュートラルに向けた取り組み」を題材として、昭和電工株式会社 融合製品開発研究所 中島健一朗氏の「カーボンニュートラルに向けた熱回収」と、一般財団法人 日本エネルギー経済研究所計量分析ユニット計量・統計分析グループマネージャー 研究主幹 末広 茂氏の「2050年カーボンニュートラルへの対策と課題」の講演会を実施し、意見交換を行った。また、昨年につき、国立研究開発法人産業技術総合研究所中部センターマルチマテリアル研究部門から研究開発事業に関する提言を求められ、本学会の研究部会との連携等々、要請した。

3. 日本アルミニウム協会との連携

日本アルミニウム協会主催により開催された産学懇談会に出席し、情報交換を行った。日本アルミニウム協会の研究助成事業の約 30 件の研究の大部分を講演大会で成果発表した。大学オープンキャンパスへの軽金属製品供与貸与事業にも参画いただき、子供向け学習教材「アルミなるほどミュージアム」冊子供与、自動車フード、エンジンシリンダブロックなど大型製品貸与の協力を得た。この他、日本アルミニウム協会「アルミニウム技術戦略ロードマップ」2022 のテクニカルロードマップに軽金属学会「軽金属ロードマップ」のアルミニウム関連のサイエンスロードマップの紐付けを行った。

4. 日本マグネシウム協会、日本チタン協会、軽金属溶接協会との連携

マグネシウム研究部会を継続し、日本マグネシウム協会メンバーの参画により研究連携を実施した。第 140 回春期大会での「難燃性マグネシウム合金展伸部材創製のための最新技術開発」のテーマセッションを実施した。また、「マグネシウム合金の基礎技術」セミナー講師を日本マグネシウム協会事務局に依頼し、3 月 25 日にオンライン開催した。溶接・接合関連の若手研究者奨励のため、春期・秋期講演大会ポスター発表に軽金属溶接協会からの表彰を実施し、溶接関係研究発表の 8 名(春期大会 5 名、秋期大会 3 名)が表彰された。

5. 他学術団体、業界団体との連携

日本学術会議材料工学連絡委員会、日本工学会等と連携を保つとともに、日本金属学会、日本鑄造工学会、日本鉄鋼協会、日本塑性加工学会、日本材料学会など、他学協会との研究発表、シンポジウムの共催、協賛、後援などの協力を積極的に行った。創立 70 周年記念式典においては、日本金属学会中野貴由会長、日本鉄鋼協会小野山修平会長よりビデオ祝辞をいただいた。

[3]学会誌、学術図書等の刊行(定款第 4 条第 1 項第 3 号)

1. 会誌「軽金属」等の編集発行

本年度は、第 71 巻 4-12 号、第 72 巻 1-3 号までの 12 冊を、うち、第 71 巻 11 号は創立 70 周年記念特集号として刊行した。掲載内容の分類は以下のとおりである。

区 分	編数	区 分	編数	区 分	編数
巻頭言	2	連載講座	10	支部特集	16
研究論文	25	新製品紹介	0	はぐくむ	1
速報論文	6	随想	4	研究部会紹介	7
解説	14	LM コラム	7	学会便り	15
技術報告	0	研究室／研究所紹介	0	支部便り	7
年間レビュー	12	維持会員紹介	1	私の一枚	1
座談会	1	国際会議便り	2	掲載総数	131

【創立 70 周年記念特集号】

区 分	編数	区 分	編数	区 分	編数
巻頭言	1	軽金属学会の歩み	4	若手の会・女性会員の会	2
特別寄稿	4	支部活動	8	軽金属学会の過去・現在・未来	28
				掲載総数	47

2. 研究部会報告書の発行

前期終了した 3 研究部会のうち 2 研究部会と令和元年度に終了した研究部会の報告書を発行した。

No.	名 称	発行 令和年月日
80	アルミニウム合金の熱処理技術とミュオン測定検討部会報告書	3 年 6 月 30 日
81	高精度板成形シミュレーションの普及化検討研究部会 「アルミニウム合金板材の高精度成形シミュレーション普及化技術」	3 年 6 月 28 日
82	異種金属接合部の腐食挙動予測研究部会 「異種金属接合部の腐食挙動予測研究部会成果報告書」	4 年 3 月 31 日

3. その他刊行物

名 称	発行 令和年月日
第 140 回春期大会講演概要集(冊子体、電子版)	3 年 4 月 14 日
創立 70 周年記念「私の一枚」	3 年 6 月 30 日
第 141 回秋期大会講演概要集(冊子体、電子版)	3 年 10 月 12 日
第 117 回シンポジウム「マグネシウム合金の接合技術」	3 年 11 月 25 日
「軽金属学会 70 年史」	3 年 12 月 15 日
第 119 回シンポジウム「マルチマテリアル接合」	4 年 3 月 8 日
第 120 回シンポジウム「カーボンニュートラルに向けたモビリティの動向とそれに伴う熱マネジメント」	4 年 3 月 10 日

第 121 回シンポジウム「飲料用缶の現状と将来」	4 年 3 月 17 日
第 122 回シンポジウム「最新のチタン材料技術と製品への応用」～さまざまな分野で活躍が期待されるチタン	4 年 3 月 23 日

[4] 研究及び調査の実施(定款第 4 条第 1 項第 4 号)

研究委員会は新設の「6000 系アルミニウム合金の相変態挙動研究部会」、「アルミニウム合金のひずみ速度感受性モデル化研究部会」を加えた 14 部会が活発な研究事業を実施した。WEB 上に各研究部会活動紹介を行い、部会活動の見える化を図った。春秋講演大会で LPSO/MFS 構造材料研究部会と汎用型高性能・高信頼性マグネシウム合金研究部会、アルミニウム中の水素と材料物性研究部会が企画したテーマセッションを実施した。また、最終年度を迎えた 4 研究部会が 1 年延長を決め、新規部会「7000 系アルミニウム合金の時効硬化挙動研究部会」も加え、次年度の設置準備を行った。令和 3 年度の 14 研究部会の活動成果概要を下表に示す。

No.	部会名	課題	研究成果概要
1	押出材組織に起因する欠陥検討部会 【開催期間】 令和元年4月-令和5年3月末	組織の違いにより生じる表面欠陥、機械的特性のばらつきに対して押出加工条件や工具形状で改善が図れるか否かの議論に用いることができる数値シミュレーションの開発を進める。用いる組織予測式の開発には、各種アルミニウム合金の組織変化の特性を把握する必要があるため、組織分析の実験も並行して進める。	2 回(令和 3 年 11 月 5 日、令和 4 年 1 月 26 日)の研究部会を開催。3 種のブリッジ形状を有するポートホールダイスで熱間押出加工した A6063 ホロー型材(断面 50×80、厚さ 2mm)の溶着部や内外面の組織観察を行った。また、ダイス内のメタル流動解析シミュレーションも引き続き実施した。 ①A6063 型材の溶着部とそれ以外の部材の組織観察を実施し差異を確認し、SEM-EDX で元素分析も行い溶着部への混入物を分析した。 ②ポイントトラッキング機能を用いて、ブリッジ前面と背面部やダイス前面のメタルの状態を観察し、強せん断域を通過する被加工材の温度、歪を観測した。
2	アルミニウム板生産技術研究部会 【開催期間】 令和元年4月-令和5年3月末	アルミニウム板製品の表面欠陥についての分類から始まり、発生メカニズムの整理、防止策の検討や事例紹介、また、表面欠陥の検出技術についても議論検討しレベルの向上を図る。最終的には事例集を中心に報告書を作成する。	3 回(令和 3 年 6 月 25 日、9 月 30 日、令和 4 年 1 月 12 日)の研究部会を開催。 ①個別事例のあるべき姿の討議を実施した。 ②各種計測機器の現状調査・抽出を実施した。
3	アルミニウム中の水素と材料物性研究部会 【開催期間】 令和元年4月-令和5年3月末	アルミニウムに過飽和に固溶する原子状水素とそれが分子状水素として析出したポアやブリスターなどのマイクロ欠陥の生成、成長および消滅、およびそれらがアルミニウムの材料物性に及ぼす影響を調査し、水素やマイクロ欠陥制御による特性改善の可能性を議論する。	4 回(令和 3 年 6 月 9 日、9 月 13 日、12 月 10 日、令和 4 年 3 月 30 日)の研究部会を開催。水素分析 WG 検討会合を 7 月 27 日に開催。 ①共通試料を使った昇温水素脱離分析によるラウンドロビンテストを実施した。昇温脱離分析に用いる水素検出方法の違い(GC と QMS)で放出水素温度に大きな違いが見られることが明らかになった。ガスクロタイプの TDA 分析では、用いた検量線の違いによって、積算水素量の絶対値に大きな違いが生じることが明らかになった。検量線の再検討を行うことで、あらためた水素分析評価を実施することが必要であるということが確認された。 ②アルミニウム中の水素挙動、水素分析・解析事例に関する最新の研究成果について、外部講師による研究紹介が行われた。 ③共通試料を用いた研究の進捗についての報告が行われた。
4	アルミニウム接着接合研究部会 【開催期間】 令和元年4月-令和5年3月末	アルミニウム材の接着特性、とりわけ長期信頼性が確保できることを念頭に置き、①アルミニウム素材の表面処理と接着現場での前処理による表面性状と接着メカニズムの解析、②劣化を模擬する試験条件の検討と標準化、③耐久性劣化メカニズムの解析、④劣化予測技術への足がかり、等を検討する。	5 回(令和 3 年 4 月 27 日、6 月 3 日、8 月 24 日、11 月 2 日、令和 4 年 2 月 1 日)の研究部会を開催。「接着性能が得られる表面の指標を規定」「耐久試験時の劣化メカニズムを特定」を目的とした予備試験を推進した。 ①予備試験 1:アセトン洗浄材、リンクロ処理材の接着強度および表面自由エネルギー測定を実施した。 ②予備試験 3-1:アセトン洗浄材、リンクロ処理材の温水浸漬試験後の接着強度測定を実施した。 ③予備試験 3-2:温水浸漬試験前後の静電容量測定を実施し、水分の含有量と対応する関係が得られた。 ④予備試験 4:電解研磨品でのリンクロ処理条件およびレーザー処理条件の検討を実施した。 ⑤予備試験の成果を大会テーマセッションとして発表することとし、これに向けて部会を令和 6 年 3 月まで 1 年延長申請予定。

5	<p>汎用型高性能・高信頼性マグネシウム合金研究部会</p> <p>【開催期間】 令和元年4月-令和5年3月末</p>	<p>汎用性の高い合金(資源偏在性の少ない安価な、かつリサイクルが容易な合金)を対象として、その性能・使いやすさを継続的に改善していく。構造部材としての信頼性(クリープ特性、耐食性、疲労特性等)や、評価手法の確立などにも焦点を当てる。</p>	<p>3回(令和3年8月17日、11月24日、令和4年3月11日)の研究部会を開催。三協立山にて実施した Mg 合金展伸材の温間軸力クリープ試験の結果や、産総研にて実施した Mg 合金展伸材の温間圧縮試験、定荷重応力腐食試験の結果が報告された。</p> <p>①ボルト軸力クリープ試験: AZ31 合金圧延材及び押出材を対象として、初期軸力 15kN(面圧 80MPa)のボルト締結材に 100°C (100h)の熱履歴に付与した結果、90%以上の軸力が残存した。現在、100°C近傍の材料変形メカニズムを圧縮試験により調査中。</p> <p>②応力腐食試験: ISO20728「マグネシウム合金の応力腐食割れ抵抗の測定」に準拠した試験(定荷重応力腐食試験)を実施。AZ31 合金押出材(t=3mm、押出方向//試験片長手方向)を対象として試験をした結果、下限界応力として 90MPa が得られた。</p>
6	<p>加工熱処理工程における動的/静的組織形成予測部会</p> <p>【開催期間】 令和元年4月-令和5年3月末</p>	<p>我が国独自のアルミ製造技術に貢献できる材料組織形成シミュレーションの構築を目指す。加工中の動的組織変化および最終組織の機械的特性に影響を及ぼす一要因に挙げられる、高温変形過程における第二相粒子などの動的析出挙動についてのデータベース構築および動的観察技術の可能性を模索する。</p>	<p>5回(令和3年4月1日、12月10日、令和4年1月24日、2月24日、3月7日)の研究部会を開催。</p> <p>①Al-Mn 系合金を研究対象として、熱間加工試料の析出物の存在状態や再結晶挙動など組織形成パラメータの実験的評価を進めている。</p> <p>②有限要素法と機械学習を用いた熱間加工時の摩擦や熱伝達パラメータの自動同定手法に関する検討を実施した。</p> <p>③“Virtual fabrication of aluminium products: microstructural modeling in industrial aluminum production”を勉強会テキストに選定し、各委員の担当箇所を決定した。今年度の第4回研究部会からレビューを開始した。</p>
7	<p>アルミニウム製造副産物のアップサイクル研究部会</p> <p>【開催期間】 平成30年4月-令和5年3月末(1年延長)</p>	<p>副産物の主成分である酸化物を安価で簡易に高純度化するアップサイクルプロセスを研究・議論し、耐火材原料やセメント原料等への市場開拓を実施する。</p>	<p>1回(令和3年12月7日)の研究部会をオンラインで開催した。</p> <p>①難処理性のアルミニウム製造副産物である集じん灰計6種について、酸化物毎の構成割合を含む精緻な化学分析データを得た。</p> <p>②湿式処理による集じん灰の無害化において、溶出成分の挙動を元素ごとに明らかにした。</p> <p>③湿式処理において問題となる廃液発生について、発生量原単位削減に関する取り組み結果を共有した。</p>
8	<p>中・高温域におけるアルミニウム合金の機械的特性に関する研究部会</p> <p>【開催期間】 平成30年4月-令和5年3月末(1年延長)</p>	<p>各種合金における100-400°C付近の温度における各合金の変形抵抗、特に成形時の高ひずみ速度における特性をデータベース化し、熱利用成形の普及を図る。</p>	<p>3回(令和3年5月18日、8月3日、11月29日)の研究部会を開催。温間成形加工実験(圧縮試験)の実施、温間引張実験の検討を行った。コロナ感染対策のため、実験進捗遅れもあり、1年延長を決定している。</p> <p>①温間成形加工実験(圧縮試験)を行った(装置不具合が発生したが部品交換などで現在は回復、実験実施中)。</p> <p>②単軸引張試験の実施については広島商船主導で広島大学にて実施する。</p>
9	<p>アルミニウム溶湯による耐火物の損傷プロセス研究部会</p> <p>【開催期間】 平成30年4月-令和5年3月末(1年延長)</p>	<p>耐火物損傷プロセスを溶湯成分、耐火物種等から調査し、特徴を分離、データベース化し、耐火物・溶湯品質の改善に繋げる。</p>	<p>2回(令和3年9月15日、令和4年3月15日)の研究部会を開催。</p> <p>①耐火物損傷の X 線 CT による立体観察と定量的評価、および耐火物損傷に伴う溶湯品質の変化を化学分析により把握。</p> <p>②耐火物内部のコランダム化およびコランダム塊(オバケ)の組織と成分を FE-EPMA により調査。</p> <p>③損傷により形成されたスピネル、コランダム、および損傷前の耐火物(アルミナ-シリカ)を高温型熱機械・歪み測定装置(TMA)により評価。それぞれ線膨張係数を導出すると共に耐火物に発生するクラックとの関係を検討。</p>
10	<p>高強度アルミニウム合金部会</p> <p>【開催期間】 平成30年4月-令和5年3月末(1年延長)</p>	<p>巨大歪み加工や合金組成制御した時効析出を利用したアルミニウム合金の高強度化技術を一元的に整理し、実用高強度合金の開発に資する基礎的知見として体系化する。</p>	<p>3回(令和3年6月8日、9月2日、11月26日)の研究部会を開催した。コロナ感染対策による進捗遅れで1年延長し、令和4年度が最終年度となる。</p> <p>①各種プロセスによる共通試料高強度材の機械的特性評価を進め、機械的特性に影響する因子に関する議論を実施した。</p> <p>②6000系共通試料について、Cu 量の影響をより詳細に検討するための追加試料を作製した。</p> <p>③実用特性として共通試料の強圧延材および HPS 材を用いた</p>

			耐 SCC 性の評価を開始した。
11	LPSO/MFS 構造材料研究会 【開催期間】 令和元年4月-令和5年3月末	ミルフィーユ構造(MFS構造)は、Mg合金のみならずAl合金やTi合金においても形成される可能性が高く、軽金属材料に革新をもたらすことが期待される。そこで、軽金属材料を中心にLPSO構造やMFS構造を持つ新物質の創製を試みるとともに、その構造とキンクの制御により高強度の軽金属材料の創成を試みる。	3回(令和3年11月10日、令和4年1月21日、3月29日)の研究部会を開催。 ①第140回春期大会においてテーマセッション「LPSO/MFS構造の材料科学IV」を実施し、LPSO/MFS構造を持つ軽金属材料に関する議論を深めた。 ②金属系MFS構造の創製とキンク強化、MFS構造におけるキンクの精密解析、ミルフィーユ構造物質のキンク強化:実験と理論の両面からのアプローチの3テーマについてオンライン講演会、総合討論を実施。 ③第142回春期講演大会のテーマセッションとして「LPSO/MFS構造の材料科学VI」を提案した。
12	マテリアルズ・インフォマティクス研究会 【開催期間】 令和2年4月-令和6年3月末	データベースを中心としたプロセス・材料組織・材料特性の相互の関係性を機械学習により分析するシステムの検討および開発を行い、これらの技術を軽金属材料の研究・開発に適用することを目指す。尚、本研究部会では実験データの収集・分析に重点を置き、補完的に理論計算を行う。	2回(令和3年4月26日、令和4年1月24日)の研究部会を開催。 ①Webアプリケーションのテストを実施するためのクラウドサーバを移行した。また、Webアプリケーションのアップデートを行った。 ②Webアプリケーションの大まかな構成(データのアップロード、特徴量抽出、機械学習の一連の流れを行う部分)はほぼ完成した。 ③分散型データベースを構築するための相互通信機能を新たに追加した。 ④画像のアップロード、画像処理パラメータの設定、計算結果のアップロードが行えるクライアントサイドアプリの開発を行った。 ⑤Raspberry Pi等のIoT機器にインストールして測定装置からデータを収集するクライアントサイドアプリの開発を行った。
13	アルミニウム合金のひずみ速度感受性モデル化研究会 【開催期間】 令和3年4月-令和7年3月末	新しい測定法、精度を議論し、これまでのデータの見直し、新規データの取得を行うこととともに、材料組織と力学特性との関係を明らかにし、成形や衝突のシミュレーション高精度化のため、ひずみ速度感受性に関する材料モデルおよびパラメータの適正化を行うことを目的とする。	2回(令和3年7月5日、令和4年1月25日)の研究部会を開催。 ①外部講師のひずみ速度の影響についての基礎的な講演を行い、高ひずみ速度での測定法、精度および同種の先行研究での知見について、参加メンバーの共通認識を得ることができた。 ②12月に研究会メンバー内アンケート、企業メンバーニーズ説明などにより、研究会の方向性を定めることができた。 ③第124回シンポジウム「衝撃工学の基礎と安全深化のための軽金属工業製品への応用」の開催(令和4年6月)を企画委員会に提案した。
14	6000系アルミニウム合金の相変態挙動研究会 【開催期間】 令和3年4月-令和7年3月末	二段時効の負の効果など工業的にも問題となる本系合金特有の諸現象についての共通理解を図り、その後、複数のクラスタを考える必要性や多くの種類の析出相が出現する理由、ナノクラスタの原子レベルでの形成挙動や β'' 相との関係性などについて、先進的な解析装置と広範な計算科学を組み合わせることで明らかにすることを目的とする。	2回(令和3年11月11日、令和4年3月31日)の研究部会を開催。 ①計5名の話題提供により、これまでの6000系合金の研究の歴史ならびに成果について、広く部会委員の共通理解を図った。 ②本部会が対象とする6000系合金は各社の競争分野であり、共通試料の作製・分配は難しいとの結論に至った。そのため、部会の進め方としては、学側の参加委員(+共同研究をしている個社)の公表済み研究成果を紹介し合う形式とすることが承認された。 ③部会として活動する意義として、できるだけターミノロジーを統一しながら、合金組成や熱処理条件を正しく認識した上で、6000系合金を扱う上での「指針」が示すこととした。

[5]研究の奨励及び研究業績の表彰(定款第4条第1項第5号)

1. 研究・業績の表彰

それぞれ選考委員会において選考を行い、理事会での承認を得て、(1)および(7)1を令和3年5月開催の第140回春期大会にて、(2)~(5)および(7)2を令和3年11月開催の第141回秋期大会にて表彰を行う予定であったが、コロナ感染症対策によりオンライン開催となったため授与と物送付とした。(6)は、令和4年2月末に表彰楯を各大学、高等専門学校へ送付し、卒業・修了など相応しい時期に表彰を託した。(9)は各支部で表彰を行った。(10)は令和3年11月12日にオンライン開催された70周年記念表彰式において表彰した。

(1)令和3年度軽金属学会賞・功労賞・功績賞

前年度の軽金属学会賞・功労賞・功績賞選考委員会で選考され、理事会で承認された下記5名を表彰した。

1)第24回軽金属学会賞 関西大学 教授 池田 勝彦 君

- 2)第 23 回軽金属学会特別功労賞 日産自動車(株) パワートレイン生産技術開発本部
 神戸 洋史 君
 3)第 19 回軽金属功績賞 茨城大学 教授 倉本 繁 君
 東京工業大学 准教授 小林 郁夫 君
 千葉工業大学 教授 本保元次郎 君

(2)令和 3 年輕金属論文賞・論文新人賞

北園幸一推薦委員長のもとで論文賞対象論文 34 編の内 6 編、新人賞対象論文 10 編の内 6 編の論文を推薦し、渡辺義見選考委員長のもとで 3 編(名)の論文賞、3 名の新人賞を選考した。

1)論文賞

- ①「時間分解 X 線トモグラフィを用いた TiB₂ 添加により等軸晶化した Al-Cu 合金の凝固過程の定量解析」
 第 70 巻 8 号(2020) 339-346 掲載
 京都大学工学研究科 鳴海 大翔 君
 京都大学工学研究科 河原崎 琢也 君
 京都大学工学研究科 加藤 勇一 君
 九州大学工学研究科 森下 浩平 君
 京都大学工学研究科 安田 秀幸 君
- ②「時間分解・その場観察による TiB₂ 添加 Al-4%Si 合金の波状核生成現象の評価」
 第 7 巻 1 号(2021) 22-29 掲載
 京都大学工学研究科 安田 秀幸 君
 クイーンズランド大学 野北 和宏 君
- ③「試験機揺動による粗大粒アルミニウムにおける引張変形中の転位密度変化 In-situ XRD 測定」
 第 70 巻 7 号(2020) 274-280 掲載
 兵庫県立大学工学研究科 足立 大樹 君
 兵庫県立大学学部生 溝脇 大史 君
 兵庫県立大学工学研究科大学院生 平田 雅裕 君
 兵庫県立大学工学研究科 岡井 大祐 君
 株式会社 UACJ 中西 英貴 君

2)論文新人賞

- ①「軟 X 線 XAFS 測定を用いた Al-Mg-Si 合金における自然時効によるクラスタ形成過程の解明」
 第 71 巻 3 号(2021) 144-151 掲載
 兵庫県立大学大学院 田中 芹奈 君
- ②「傾斜面またはボルダーのある面への小型探査機の着陸におけるどんぐり型 3D 積層造形ポーラス Al-10Si-0.3Mg 合金のエネルギー吸収特性評価」
 第 70 巻 8 号(2020) 333-338 掲載
 東京都立大学大学院 (現 日揮グローバル株式会社) 藤森 祐太 君
- ③「Ti-6Al-4V 合金における室温クリープ中の転位の運動様式と変形組織の発達過程」
 第 70 巻 9 号(2020) 405-414 掲載
 九州大学大学院 出口 岬 君

(3)第 56 回小山田記念賞

戸田裕之選考委員長のもと、応募 2 件について選考委員会によるプレゼンテーション審査の結果、当該技術 1 件を選考した。
 「フロントサブフレーム用アルミダイカストとその品質評価技術の確立」

- 本田技研工業(株) 畑 恒久 君
 " 岩田 佳朗 君
 " 高橋 隼人 君
 リョービ(株) 村上 衛 君

(4)第 44 回高橋記念賞

松田健二選考委員長のもと、各支部からの推薦 2 件について選考委員による書面審査の結果、2 名を選考した。

- (株)UACJ 松本 守 君
 (株)神戸製鋼所 葛西 則政 君

(5)軽金属奨励賞・躍進賞・女性未来賞

戸次洋一郎選考委員長のもと、2 つの賞について審議し、躍進賞は応募 2 名を、奨励賞は応募 3 名を選考した。女性未来賞は応募がなかった。

- 1)第 20 回軽金属躍進賞 日本大学 高木 秀有 君
 日本大学 渡邊 満洋 君
 2)第 39 回軽金属奨励賞 茨城大学 小林 純也 君
 名古屋大学 鈴木 飛鳥 君
 東北大学 盧 鑫 君

3)第 12 回軽金属女性未来賞 該当者なし

(6)令和 3 年度軽金属希望の星賞

各支部からの一次推薦 34 名について、総務委員会による二次選考の結果、34 名全員を選考した。

所属	氏名	所属	氏名
北海道大学大学院	山瀬 和葉 君	東京都立大学大学院	鎌田 凌 君

室蘭工業大学大学院	小山内雄晴 君	東京都立大学大学院	秋元 涼河 君
東北大学大学院	高島理沙子 君	富山大学大学院	涌井 拓人 君
岩手大学大学院	及川 涼一 君	富山大学大学院	渡邊 翔眞 君
群馬大学大学院	山本 貴也 君	名古屋大学大学院	石井 大貴 君
群馬大学大学院	諸橋 寛海 君	富山大学大学院	涌井 拓人 君
茨城大学大学院	石井 裕樹 君	富山大学大学院	渡邊 翔眞 君
茨城大学大学院	川崎 翔平 君	名古屋大学大学院	石井 大貴 君
茨城大学大学院	林 実 君	兵庫県立大学大学院	中嶋 優作 君
茨城大学大学院	高須 飛雅 君	兵庫県立大学大学院	泉 遥貴 君
茨城大学大学院	横田 慎介 君	大阪工業大学大学院	山崎 一輝 君
東京大学大学院	日吉 憲祐 君	大阪大学大学院	鎌田 英樹 君
横浜国立大学大学院	金 准模 君	大阪大学大学院	市川 絵理 君
山梨大学大学院	小池 純矢 君	神戸大学大学院	妹尾 和樹 君
千葉大学大学院	鈴木 康平 君	広島工業大学大学院	進野 諒平 君
東京工業大学大学院	喜連川直人 君	広島大学大学院	衛 天陽 君
東京工業大学大学院	寒川 卓哉 君	九州大学大学院	福田 祐輝 君

(7)優秀ポスター発表賞、優秀英語ポスター発表賞

本賞は春秋大会で行われるポスターセッションで発表した優秀者に贈る賞で、今年度は以下の通り春期大会で 11 名、秋期大会で 11 名を表彰した。このうち、第 135 回秋期大会より新設した優秀英語ポスター発表賞は秋期大会で 1 名を表彰した。

1)第 140 回春期大会

題目	所属	氏名
Al-Mg-Zn ₃ 元系の共晶反応を利用した Al 基铸造合金の凝固組織と室温韌性	名古屋大学(院)	岡野 直輝 君
光加熱を用いたポーラスアルミニウムと金属板との接合とその接合強度	群馬大学(院)	大塚 駿 君
加熱発泡後のポーラスアルミニウムの切断加工	群馬大学(院)	山本 貴也 君
双ロールキャスターで铸造した AC7A アルミニウム合金板の表面割れに対する铸造方法の影響	大阪工業大学(院)	山崎 一輝 君
レーザ粉末床溶融結合法による α-Al/TiAl ₆ Mg ₁₁ Zn ₁₁ 二相共晶合金の積層造形	名古屋大学(院)	崎 啓人 君
純マグネシウム単結晶の室温以下における引張変形挙動の結晶方位依存性	熊本大学(院)	坂井 優斗 君
マグネシウム圧延材における活動すべり系に対するセリウム及びアルミニウムの影響	熊本大学(院)	増永 隆佑 君
β相含有 γ-TiAl 合金の電子ビーム積層造形法による特異組織形成と高強度化	大阪大学(院)	林 竜弘 君
FSSW を用いた 6061 アルミニウム合金/CFRTP 異材界面特性に及ぼす表面処理の影響	大阪大学(院)	太田 依里 君
LPSO 型 Mg ₉₇ Y ₂ Zn ₁ 合金の高温ねじり変形挙動とそのキンク強化	東北大学(院)	藤谷 俊孝 君
In-situ XRD 測定を用いた Mg-Y 合金における引張変形中の活動すべり系評価	兵庫県立大学(院)	平田 雅裕 君

2)第 141 回秋期大会

題目	所属	氏名
粉末冶金法による Mg-Ti 系材料の創製およびその特性	日本大学(院)	伊野宮 匠 君
異なる水蒸気分圧における Al-Mg 合金の酸化挙動	東北大学(院)	高島理沙子 君
Al-Zn-Mg-Cu 合金の水素脆化挙動に及ぼす Mn 添加の影響	岩手大学(院)	及川 涼一 君
Al-Mg 合金における放射光 In-situ XRD/DIC 同時測定によるセレーション解析	兵庫県立大学(院)	北野 竜也 君
Mg-Al-Mn 合金圧延材の微細組織、引張特性および室温張出し成形性に及ぼすアルミニウム添加量の影響	長岡技術科学大学(院)	海部佳吾 君
A7075-T6511 アルミニウム合金の疲労特性に及ぼす各種無電解 Ni-P めっきの影響	広島工業大学(院)	進野 諒平 君
培地流動下における純マグネシウム円管内の腐食挙動に及ぼす粘性の影響	芝浦工業大学(院)	堤田 耕平 君
機械学習による界面曲率の推定を利用したアルミニウム合金の凝固組織シミュレーション	秋田大学(院)	永瀬 萌 君
7000 系アルミニウム合金押出材における疲労負荷によるマイクロ組織変化	茨城大学(院)	近藤 大輝 君
Al-Cu-Mg 系合金冷間圧延材の引張特性に及ぼす時効処理の影響	茨城大学(院)	石井 裕樹 君
英語: Grain Refinement and Equiaxial Behavior in Unidirectional Solidification Structure of 99.8 mass% Al with Heterogeneous TiC Nucleation Site Particles	早稲田大学(院)	Xianpan TAN 君

(8)令和 4 年度軽金属学会賞・功労賞・功績賞

熊井真次選考委員長のもと、3 つの賞について審議の結果、学会賞は該当者なく、功労賞は 2 名の候補者を、功績賞は 3 名の候補者をそれぞれ下記のとおり選考した。表彰は令和 4 年 5 月開催の第 142 回春期大会にて行う予定であったが、コロナ対策のためオンライン開催となったため、授与物送付とした。

1)第 25 回軽金属学会賞

該当なし

2)第 24 回軽金属学会功労賞

不二ライトメタル(株) 取締役

井上 正志 君

3)第20回軽金属功績賞	株式会社 UACJ 主幹	箕田 正 君
	産業技術総合研究所	
	マルチマテリアル研究部門 研究グループ長	千野 靖正 君
	大阪大学 教授	中野 貴由 君
	大阪大学 准教授	堀川敬太郎 君

(9)令和3年軽金属学会企業奨励賞

本賞は平成26年度より支部表彰していたものを平成28年度より本部表彰として、各支部における軽金属に関する研究、技術開発、商品開発等において優れた業績を残した維持会員に贈る賞で、下記の通り、支部推薦の2社を表彰した。

(株)富士テクノマシン	関東支部
徳田工業工業(株)	東海支部

(10)創立70周年記念表彰

70周年記念式典Gの実行部隊である総務委員会式典WGにおいて検討を重ねたうえで選考を行った。

1)70周年記念功労賞

功労賞贈賞対象者として、①本年3月31日現在で55歳以上であること、②当学会の在籍期間は25年以上であること、③60周年時に記念功労表彰されていないことを同時に満足する方々、181名(氏名省略)を選考した。

2)70周年記念学術功績賞

過去10年間で「軽金属」および「Mater.Trans.」に論文投稿が多かった以下の10名を選考した。

小椋 智君(大阪大学)、櫻原 恵蔵君(和歌山工業高等専門学校)、久保田正広君(日本大学)、熊井 真次君(東京工業大学)、才川 清二君(富山大学)、田村 洋介君(千葉工業大学)、半谷 禎彦君(群馬大学)、堀川敬太郎君(大阪大学)、吉田 英雄君(超々ジュラルミン研究所)、吉野 路英君(三菱アルミニウム株)

3)第1回希望の星賞グラウンドチャンピオンシップ最優秀希望の星賞

2008~2017年の希望の星賞受賞者のうち、2021年4月時点で学会会員(維持会員も含む)であり、希望の星賞受賞後、軽金属誌やMater.Trans.誌に論文掲載され(卒業後、博士課程に進学した場合はその業績も含む)、最近の3年間に春秋の講演大会で講演発表を行うなど学会活動に参画している以下の7名を選考した。

澤谷 拓馬君(三菱アルミニウム株)、中田 大貴君(長岡技術科学大学)、増田 高大君(横浜国立大学)、村松 賢治君(東洋アルミニウム株)、水谷 学君(住友電気工業株)、成田 麻未君(名古屋工業大学)、山田 隆一君(山梨大学)

4)70周年記念維持会員運営功労賞

過去10年間に常設委員会委員長または副委員長を務めた回数が多い維持会員企業所属の以下5名を選考した。

足高 善也君(東洋アルミニウム株)、阿見 秀一君(三協立山株)、神戸 洋史君((公社)日本鑄造工学会)、橘内 透君(ヤマハモーターエレクトロニクス株)、中沢 靖君(株本田技術研究所)

5)70周年記念感謝状

軽金属セミナー「アルミニウム合金の組織」の講師8名と過去10年間に当学会の事業発展のために多大なご支援を賜った3団体を選考した。

浅見 重則君(軽金属学会 技術参与)、伊藤 吾朗君(茨城大学 名誉教授)、里 達雄君(東京工業大学 名誉教授)、関史江君(元 東京大学)、手塚 裕康君(元 東京工業大学)、廣澤 渉一君(横浜国立大学)、戸次洋一郎君(株UACJ)、吉田英雄君(軽金属学会 技術参与・超々ジュラルミン研究所 代表)

公益財団法人軽金属奨学会、株式会社アーレスティ、株式会社日刊工業新聞社

[6]その他、本学会の目的を達成するために必要な事業(定款第4条1項第6号)

1. 人材育成

本部において、昨年同様、大学オープンキャンパスへの軽金属製品の供与・貸与事業を実施し、小中高生、教師、父兄への軽金属製品啓蒙を行った。今回も維持会員企業、日本アルミニウム協会の協力を得て、6校に製品提供し、各校の開催報告記事「はぐくむ」を会誌、HPに掲載した。また、HPの研究室/研究機関紹介更新、アルミニウムの製造工程動画追加を行った。男女共同参画委員会では男女共同参画学協会連絡会が後援する「女子中高生夏の学校2021~科学・技術・人との出会い~」に参加し、約100名の女子中高生の進路相談に応じた。

また、各支部においても、学生会員を対象とした講演会、ポスター発表など、若手人材育成に関わる事業を実施した。新型コロナウイルス感染症対策のため対面開催に代わり、WEB開催した。

2. 男女共同参画委員会(若手の会、女性会員の会)

(1)若手の会

第40回会合:第140回春期大会第2日目(5月16日)にWEB開催した。大学2名、学生3名、企業4名の合計9名が参加。

第20回若手育成のための合同会合:第140回春期大会前日(5月14日)にWEB開催した。大学1名、学生2名、企業4名、子供1名の合計8名が参加。

第41回会合:第141回秋期大会第2日目(11月14日)にWEB開催した。大会参加者以外の一般参加も含め、大学3名、学生3名、企業13名、子供1名の合計20名が参加。

第21回若手育成のための合同会合:第141回秋期大会前日(11月12日)にWEB開催した。大会参加者以外の一般参加も含め、大学1名、学生5名、企業7名の合計13名が参加。

(2)女性会員の会

第30回会合:第140回春期大会第1日目(5月15日)にWEB開催した。参加者15名(女性10名、男性5名)。

第21回託児室設置:第140回春期大会はWEB開催のため設置を中止した。

第31回会合:第141回秋期大会第1日目(11月13日)にWEB開催した。大会参加者以外の一般参加も含め、参加者21名(女性16名、男性5名)。

第22回託児室設置:第141回秋期大会はWEB開催のため設置を中止した。

(3)男女共同参画委員会

第4回男女共同セッション:第140回春期大会第1日目(5月15日)に大会WEB会場を利用し、「身近な無意識のバイアス」と題して、株式会社ダイバーシティオフィスKITAO代表 北尾 真理子氏のダイバーシティの尊重と活用推進を妨げるものについて講演を実施。参加者60名。

第5回男女共同セッション:第141回秋期大会第1日目(11月13日)に大会WEB会場を利用し、「企業で活躍する博士」と題して、博士課程修了後の進路に焦点を当て、博士課程進学から就職までの過程や企業での仕事の取組みについての体験談を話題に、三菱アルミニウム(株)澤谷拓馬氏、日本軽金属(株)竹田 聡氏の講演を実施した。参加者71名。

3. 中堅企業R&D支援

二次加工業界の多くを占める中堅企業の技術開発を支援する「中堅企業R&D支援プログラム」の一環として、無料講演会、イブニングセミナー、相談会などの行事を各支部でWEB会議を利用し実施した。本部では軽金属セミナーを録画したDVDの無料貸出を実施し、会員サービス向上による会員基盤増強を図った。また、オンライン開催した春期大会においては、「加工技術の新機軸」と題して、三菱電機(株)橋本 隆氏の「軽量化を実現する金属AM技術」、(株)デンソー高橋嘉仁氏の「自動車用熱交換器チューブ部品のロール成形技術の開発」の講演を、また、秋期大会においては、ユーザー企業参加促進策として、三協立山(株)橋本清春氏の「アルミ水平リサイクルによる新幹線N700S内装材の開発」、(株)UACJ山崎裕貴氏の「低CO2リサイクルアルミ材の開発」、日本軽金属(株)林 沛征氏の「最高押出速度を引き出せる押出加工設計技術」の講演など企業招待講師による企業セッションを実施し、技術交流の場を提供した。

4. 支部活動

(1) 北海道支部

計画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 支部理事会、支部評議員会(2回) 2.講演会等 ①中堅企業支援セミナー(苫小牧/札幌) ②支部講演大会 9月(札幌) 協賛:7月、1月 ③講演会 北海道大学共催 ④70周年記念講演会 3.人材育成 ・若手育成支援事業(2.③で計画予定) 4.表彰関係 ・学生優秀講演賞 ・軽金属希望の星賞一次選考、推薦 5.維持会員加入勧誘活動 ・訪問活動継続	1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 7月21日、12月28日にWEB実施 2.講演会等 ①実施なし ②支部講演大会:11月26日にWEB実施 共催:7月と1月にWEB開催 ③室蘭工業大学と苫小牧市テクノセンターとのWEBセミナー(9月14日)に後援 ④11月26日にWEBで実施 3.人材育成 支部講演大会で優秀な発表者を表彰 4.表彰関係 ・支部講演大会の優秀講演賞1名受賞 ・軽金属希望の星賞支部2名受賞 5.維持会員加入勧誘活動 コロナ禍のため訪問活動に進展無し。
特記事項) 1.第140回春期講演大会が、コロナ禍の影響よりWEB開催となったことで実行委員会メンバーが大会運営委員会を補助した。 2-②. 鑄造工学会北海道支部と共催講演大会は中止のため70周年記念事業と同時開催。 2-④. 題目 溶融 Al・Zn と Fe の反応 ~耐湯溶性コーティングの開発~ DBC システム研究所 成田敏夫(北海道大学名誉教授) 「チャレンジフィールド北海道」~産学連携 3.0 を目指して~ノーステック財団 鈴木耕裕 4.優秀講演賞:北海道大学大学院工学研究院 Liu XinXin 軽金属希望の星賞:室蘭工業大学大学院工学研究科 小山内雄晴 北海道大学大学院工学研究院 山瀬和葉	

(2)東北支部

計画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 役員会(2回)11月、3月 2.講演会等 ①主催講演会(2回) ・70周年記念講演会 ・イブニングセミナー ②共催・後援行事(3回) ・日本バイオマテリアル学会東北ブロック講演会 ・塑性加工学会東北ブロック2021年度見学会 3.人材育成	1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 12月6日、3月4日 運営委員会 WEB開催 2.講演会等 ①主催講演会 ・12月6日WEB開催 約50名参加 ・3月4日WEB開催 約40名参加 ②共催・後援行事(2回) ・9月29日WEB開催 123名参加 ・11月15日開催 30名参加 3.人材育成

若手育成支援事業 学生ポスターセッション 4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ③軽金属学会賞推薦 ④軽金属学会功労賞推薦 5.維持会員加入勧誘活動 ・イブニングセミナー開催 ・軽金属学会企業奨励賞推薦	9月29日 共催講演会にてWEB開催 4.表彰関係 ①推薦なし ②2名推薦、受賞 ③推薦なし ④推薦なし 5.維持会員加入勧誘活動 ・3月4日 WEB開催 ・推薦なし
特記事項) 2-②.共催行事において、若手支援助成金を申請。東北地区学生によるポスター発表の開催 5.溶接、接合テーマでセミナーを開催、宮城県産業技術総合センターと連携して情報周知、集客	

(3)関東支部

計画	実施状況	
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①支部運営委員会(4回) ②情報交換会 2.講演会等 ①第141回秋期大会(山梨大)の実行援助 ②工場見学会 3.人材育成 ①若手研究者講演発表会 4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ④軽金属企業奨励賞推薦 ⑤エネルギー利用技術作品コンテスト審査 5.維持会員加入勧誘活動 ・企画委員会マグネシウムセミナー共催 ・訪問活動を継続	1.運営委員会 ①6月2日、10月12日、12月9日開催 ②3月4日開催 2.講演会等 ①WEB開催 ②中止 3.人材育成 ①11月27日 WEB開催 60名参加 発表者34名 優秀研究講演賞21名表彰 4.表彰関係 ①(株)神戸製鋼所 葛西則政氏推薦、受賞 ②推薦なし ③18名推薦 ④(株)フジテクノマシン推薦、受賞 ⑤なし 5.維持会員加入勧誘活動 ・3月25日WEB開催 ・企業奨励賞企業維持会員入会	
特記事項) 70周年記念事業 ①特別講演会 3月4日 ハイブリッド開催 「追想—軽金属学会での日々—」 「アルミニウム合金による自動車の軽量化技術と将来展望」 「ワクワクする研究を求めて40年余」 ②関東支部功労賞贈呈式 21名受賞 3-①若手育成特別講演「輸送機材用アルミニウム材料」		
	工学院大学 名誉教授	小野幸子
	(株)神戸製鋼所次長	櫻井健夫
	茨城大学 名誉教授	伊藤吾朗
	(株)UACJ	戸次洋一郎

(4)北陸支部

計画	実施状況	
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①定例幹事会 4月14日、9月 2.講演会等 ①春期講演会 6月8日 ②秋期講演会(70周年事業と合同) 10月 3.人材育成 ①幹事研修会:11月 ②若手人材育成事業:7月 6回 4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 5.維持会員加入勧誘活動 随時	1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①4月15日(木)WEB開催 9月10日(金)メール会議 2.講演会等 ①5月28日(木)WEB開催 ②11月26日(金)開催 3.人材育成 ①中止 ②中止 4.表彰関係 ①推薦なし ②推薦なし ③2名推薦、受賞 5.維持会員加入勧誘活動	
特記事項) 70周年記念事業 記念講演会・支部表彰 11月26日 ANAクラウンホテルプラザ富山 開催		

<ul style="list-style-type: none"> ・功労者表彰 ・特別講演 「支部の思い出」 支部長 松田健二 <li style="padding-left: 20px;">「私と北陸支部」 三協立山(株) 山下友一 ・企業発表 10社 ・「北陸支部の歩み」発行予定
<p>協賛事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本金属学会・日本鉄鋼協会北陸信越支部 (6月29日、12月4日) 日本・ノルウェーアルミニウム合金シンポジウム (12月13日～16日) 富山大学材料科学国際シンポジウム(ICPMAT)チェコ科学アカデミー(9月28日～10月8日) 富山大学材料研究会 (9月14日)

(5)東海支部

計画	実施状況												
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①総会 ②理事会(3回、但し第1回は運営委員会と兼務) 2.講演会等 ①講演会(1回)70周年記念事業 ②研究会(航空機材料部会) 3.人材育成 ①若手ポスター発表会 ②若手の会(軽進会) ③女性会員の会 ④中・高生向け工場見学会 4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ③企業奨励賞推薦 5.維持会員加入勧誘活動 ①支部セミナー ②TECH Biz2022 支部活動展示、講演会 ③維持会員勧誘	1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①5月にメル審議で実施 ②2回メール審議で開催(9月、3月) 2.講演会等 ①6月7日表彰式、座談会、講演会 WEB 開催、63名参加 ②中止 3.人材育成 ①WEB 開催 ②中止 ③中止 ④中止 4.表彰関係 ①(株)UACJ 松本 守氏推薦、受賞 ②1件推薦、受賞 ③徳田工業(株)推薦、受賞 5.維持会員加入勧誘活動 ①3月10日 WEB 開催 ②2月9-10日出展 ③徳田工業(株)加入												
<p>特記事項)</p> <p>2-①軽金属学会 70周年記念行事 支部特別功労賞受賞者</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 40%;"></td> <td style="width: 30%;">豊橋技術科学大学名誉教授</td> <td style="width: 30%;">小林俊郎</td> </tr> <tr> <td></td> <td>元産業技術総合研究所</td> <td>三輪謙治</td> </tr> <tr> <td></td> <td>超々ジュラルミン研究所、元(株)UACJ</td> <td>吉田英雄</td> </tr> <tr> <td></td> <td>名古屋大学名誉教授</td> <td>金武直幸</td> </tr> </table> <p>表彰記念座談会 特別講演会「アルミニウムのサプライチェーンにおけるサステナビリティの取り組み」 リオテントジャパン(株) 小原雄一郎</p>			豊橋技術科学大学名誉教授	小林俊郎		元産業技術総合研究所	三輪謙治		超々ジュラルミン研究所、元(株)UACJ	吉田英雄		名古屋大学名誉教授	金武直幸
	豊橋技術科学大学名誉教授	小林俊郎											
	元産業技術総合研究所	三輪謙治											
	超々ジュラルミン研究所、元(株)UACJ	吉田英雄											
	名古屋大学名誉教授	金武直幸											

(6)関西支部

計画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①支部理事会(2回) ②支部幹事会(2回) 2.講演会等 ①支部シンポジウム ②オンライン研究会 3.人材育成 ①関西軽金属サマースクール ②若手研究者・院生による研究発表会 (学会創立70周年記念支部事業) ③大学院生フィールドワーク助成プログラム 4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ④企業奨励賞 ⑤学会創立70周年記念支部表彰	1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①3年7月8日WEB開催 ②3年7月8日WEB開催 2.講演会等 ①新型コロナウイルス感染拡大のため中止 ②開催なし 3.人材育成 ①中止 ②3月29日WEB開催 ③中止 4.表彰関係 ①推薦なし ②推薦なし ③6名推薦、受賞 ④推薦なし ⑤支部功労賞を検討中

⑥軽金属学会賞推薦 ⑦軽金属功績賞推薦 5.維持会員加入勧誘活動 ①勧誘活動継続 ②中堅企業支援セミナー(出前講座)	⑥推薦なし ⑦中野貴由君、堀川敬太郎君推薦、受賞 5.維持会員加入勧誘活動 ①継続的に勧誘 ②2月10日WEB開催 38名参加
特記事項) 3-②.70周年記念関西支部講演会、表彰式 3月29日オンライン開催 ・70周年記念特別講演「チタンと向き合って40年、分かった事と出来た事」 関西大学 池田勝彦 ・学生講演発表 「異径ダブルロールキャストで鍛造したアルミニウム合金板に発生する表面割れと中心線偏析の低減」 大阪工業大学 山崎一輝 「ねじり振動付加によるマグネシウム合金の冷間据込み変形能の向上」 大阪大学 外村圭資 「AZ31 マグネシウム合金で一軸圧縮によって形成される(0002)集合組織に対する結晶学的な考察」 京都大学 ゴ ジョンビン 「再生医療技術を利用したサンゴの高効率増殖 ～海洋におけるチタンの新たな利用法～」 関西大学 上坂菜々子 「Al-Mg合金におけるIn-situ XRD/DIC同時測定によるセレーション挙動の解析」 兵庫県立大学 北野竜也 4-③.軽金属希望の星賞6名受賞 中嶋優作(兵庫県立大学)、山崎一輝(大阪工業大学)、泉遥貴(兵庫県立大学)、 鎌田英樹(大阪大学)、妹尾和樹(神戸大学)、市川絵理(大阪大学) 5-②.公益財団法人堺市産業振興センター共催中堅企業支援セミナー 「品質で差別化を図るセミナー ～アルミニウムの溶接と鍛造の応用技術～」 「溶接の最先端技術紹介」 大阪大学 森貞好昭 「3Dプリンタによる射出成型への応用と課題」 大阪府立大学 福井 清 「アルミ鍛造の基礎および先端技術紹介」 大阪産業技術研究所 柴田顕弘 「軽金属学会の紹介」 堺アルミ株式会社 山ノ井智明	

(7)中国四国支部

計画	実施状況
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 役員会 2.講演会等 ①第13回支部講演大会(鳥取もしくはオンライン) ②研究会(2回)(広島工業大学) ③70周年記念事業(岡山もしくはオンライン) 3.人材育成 ①「第49回若手フォーラム」 ②「第50回若手フォーラム」 4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ④支部賞(優秀講演賞、研究・開発奨励賞、 技術賞、奨励賞)選考・授与 ⑤支部70周年記念事業表彰 5.維持会員加入勧誘活動 ・中小企業支援事業、講演会を開催	1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 第1回6月9日WEB開催 2.講演会等 ①10月9日WEB開催 発表20名 58名参加 ②12月17日開催 30名参加 ③2月1日WEB開催 60名参加 3.人材育成 ①12月6日WEB開催 29名参加 ②2月19日WEB開催 35名参加 4.表彰関係 ①推薦なし ②推薦なし ③2名推薦受賞 広島工業大学 進野諒平 広島大学 衛 天陽 ④2-①において表彰 優秀講演賞6件 支部研究・開発奨励賞1件1組 支部奨励賞13件 ⑤支部特別功労賞4件、支部功労賞2件 優秀ポスター賞2件 ポスター発表奨励賞5件 5.維持会員加入勧誘活動 ・開催なし
特記事項) 2-2.「支部研究会」 「マグネシウム合金の湿潤環境中での脆化挙動解析」 新居浜工業高等専門学校 真中俊明 「表面酸化膜の改質による高強度アルミニウム合金の環境水素脆性の改善」 大阪大学 堀川敬太郎 「無電解Ni-Pめっきによるアルミニウム合金中への水素の侵入とトラップ状態の解析」 兵庫県立大学 福室直樹 「アルミニウム合金の水素脆性と表面処理」 広島工業大学 日野 実	

2-3.「70周年記念事業」記念講演1件、代表講演12件、ポスター発表11件		
記念講演「アルミニウムと共に」	東京工業大学	熊井真次
代表講演		
「アルミニウム合金の疲労に及ぼす表面組織の影響」	岡山理科大学	金谷輝人
「機械学習による金属材料組織の解析とその応用」	広島大学	杉尾健次郎
「アルミニウム/異種材料の点接合技術」	マツダ(株)	西口勝也
「予混合射出成形法によるMg合金の機械的特性向上について」	岡山県立大学	福田忠生
「カーボン強化マグネシウム合金の開発と実用化」	日本マテリアル(株)	橋本嘉昭
「チクソモルディングの自動車部品への適用」	(株)日本製鋼所	山口毅
「Mg-Zn-Yb系で発見された長周期構造」	愛媛大学	松下正史
「チタン合金の熱処理に伴うマルテンサイトの様相」	岡山大学	竹元嘉利
「FIB-TEMによるTiAl合金耐酸化被膜の界面組織変化解析」	香川大学	田中康弘
「製造プロセスと組成の両最適化によるTi系難創製材料開発」	広島大学	松木一弘
「チタン合金相変態組織研究～微細組織解析から細胞との相互作用解析まで～」	愛媛大学	小林千悟
「金属3Dプリンタを駆使した高強度チタン合金の開発」	鳥取大学	陳中春
3-1.「第49回若手フォーラム」		
「Ti-11Nb合金の加工熱処理による組織形成に及ぼす酸素添加効果」	愛媛大学	本宮智之
「Al-Si-Mg系鋳造合金の時効析出挙動」	広島大学	山井涼太郎
「V40Ti21.5Cr38.5合金の水素昇圧サイクルに伴う劣化挙動」	広島大学	柳雅樹
「臨界点以下における活性炭表面の吸着水素密度の温度依存性」	広島大学	魏弘之
「A7075アルミニウム合金の疲労特性に及ぼす各種表面処理の影響」	広島工業大学	川上滉太
「Mg-Zn-Ybで発見された新奇な長周期超格子」	愛媛大学	山崎大輝
「種々の方法で強化した7000系アルミニウム合金の機械的特性評価」	新居浜高等専門学校	宇都宮未羽
「セラミックス粒子強化したAl基複合材料の作製と評価」	鳥取大学	末永愛優
「レーザ積層造形したチタンの機械的性質に及ぼす微量酸化物の影響」	鳥取大学	大津彬
「マグネシウムと鋼の濡れ性改善と複合材料への応用」	広島大学	山根滉平
「0.1C-1.5Mn-3Cr鋼マルテンサイトの焼戻しに及ぼすゆらぎ生成熱処理の影響」	愛媛大学	正岡美樹
3-2.「第50回若手フォーラム」		
「溶射基材の疲労強度に及ぼす噴射加工の影響」	呉工業高等専門学校	國安美子
「Ni合金を出発点とした複相金属組織の合理的評価の試み」	徳島大学	久澤大夢

(8)九州支部

計画	実施状況	
1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①役員会(2回) ②例会(2回) 第105回役員会・例会:熊本大学 第106回役員会・例会:福岡アルミ工業(株)	1.総会・役員会・運営委員会・支部会合 ①7月30日、3月4日WEB開催 ②7月30日、3月4日WEB開催	
2.講演会等 ①合同学術講演会共催 ②70周年記念講演会:熊本大学	2.講演会等 ①6月11日WEB開催 ②12月10日開催、約100名参加	
3.人材育成 ・若手研究発表会	3.人材育成 7月30日WEB開催	
4.表彰関係 ①高橋記念賞推薦 ②軽金属功労賞推薦 ③軽金属希望の星賞一次選考、推薦 ④合同学術講演会講演大会若手ポスター賞表彰	4.表彰関係 ①推薦なし ②1名推薦、受賞 ③1名推薦、受賞 ④2名表彰、招待講演	
5.維持会員加入勧誘活動 ①訪問活動継続 ②中堅企業支援支部セミナー	5.維持会員加入勧誘活動 ①活動継続(メール) ②7月30日、3月4日WEB開催	
特記事項) ・第105回例会・中堅企業支援支部セミナー・若手助成支部セミナー 7月30日 「溶接現象の可視化 -レーザ溶接と摩擦攪拌接合-」 富山大学 柴柳敏哉 「粒界特性を考慮した結晶塑性有限要素解析手法の二相チタン合金への応用」 熊本大学 眞山剛 「不燃性マグネシウム合金の酸化皮膜設計」 熊本大学 井上晋一 合同学術講演会講演大会若手ポスター賞・招待講演		

「Ti-Ni-Hf 高温型形状記憶合金マルテンサイト相の自己調整構造」	熊本大学	前田信行
「等原子比組成 TiHf 合金の微視組織観察と相変態」	熊本大学	大住崇一郎
・軽金属学会九州支部 創立 70 周年記念シンポジウム (12 月 10 日 熊本大学工学部百周年記念館)		
開会の挨拶	熊本大学長 小川久雄 富山大学長 齋藤 滋	
記念講演 「先進軽金属材料国際研究機構の開設を喜ぶ」	九州大学名誉教授	吉永日出男
特別講演 「The Role of ILM on R&D and Applications of Light Metals in Aerospace」	熊本大学	Donald Shih
「九州大学における軽金属研究」	九州大学	中島英治
「九州工業大学における軽金属研究」	九州工業大学	徳永辰也
「ILM の紹介」	ILM 機構/熊本大学 MRC センター	河村能人
「ARC および軽金属北陸支部活動の紹介」	ILM 機構/富山大学 ARC センター	柴柳敏哉
「MRC および軽金属九州支部活動の紹介」	熊本大学 MRC センター	安藤新二
軽金属九州支部会員企業の紹介 (株)神戸製鋼所、不二ライトメタル(株)、KM アルミニウム(株)、福岡アルミ工業(株)、 九州柳河精機(株)、YKK AP(株)九州製造所		
九州支部功労賞表彰		
・軽金属学会九州支部創立 70 周年記念シンポジウム実施記録 発行		
・第 106 回例会・中堅企業支援支部セミナー・若手助成支部セミナー		
「循環型社会構築を目指したアルミニウムの高度リサイクル」	福岡県リサイクル総合研究事業化センター	中村 崇
「Al 中不純物の除去に関する熱力学的検討」	富山大学	小野英樹

II. 処務の概況

[1] 役員等に関する事項

1. 役員

職名	氏名	常勤・非常勤	就任年月日 (最初の就任の時)	重任年月日 (現在の任期の開始時)	報酬	担当 *: 委員長	現職名
代表理事・会長	熊井 真次	非常勤	令和元年5月10日	令和3年5月14日	なし	組織*	東京工業大学名誉教授/特任教授
代表理事・副会長	戸田 裕之	同上	令和元年5月10日	令和3年5月14日	同上	総合計画*	九州大学教授
同上	山口恵太郎	同上	平成29年5月20日	令和3年5月14日	同上	総合計画 男女共同	MA アルミニウム(株) MA 経営企画部
理事	青木孝史朗	同上	令和3年5月14日		同上	大会運営* 企画	芝浦工業大学教授
同上	安藤 哲也	同上	令和3年5月14日		同上	総務 研究	室蘭工業大学准教授
同上	久保田正広	同上	令和3年5月14日		同上	国際交流* 参与会	日本大学教授
同上	倉本 繁	同上	令和3年5月14日		同上	企画 国際交流	茨城大学教授
同上	佐藤 裕之	同上	令和元年5月10日	令和3年5月14日	同上	研究 参与会	弘前大学教授
同上	鈴木真由美	同上	令和3年5月14日		同上	男女共同* 大会運営	富山県立大学教授
同上	千野 靖正	同上	令和3年5月14日		同上	編集	産業技術総合研究所 マルチマテリアル研究部門 研究グループ長
同上	中川 恵友	同上	令和3年5月14日		同上	大会運営	岡山理科大学教授
同上	中山 栄浩	同上	令和元年5月10日	令和3年5月14日	同上	編集	山梨大学教授
同上	春名 匠	同上	令和元年5月10日	令和3年5月14日	同上	大会運営	関西大学教授
同上	廣澤 渉一	同上	令和3年5月14日		同上	編集* 総務	横浜国立大学教授
同上	松田 健二	同上	令和3年5月14日		同上	支部* 国際交流	富山大学教授
同上	三浦 博己	同上	令和3年5月14日		同上	研究、編集	豊橋技術科学大学教授
同上	向井 敏司	同上	令和3年5月14日		同上	企画 国際交流	神戸大学教授
同上	穴見 敏也	同上	平成29年5月20日	令和3年5月14日	同上	総務*	日本軽金属(株) 技術・開発グループ管理部長
同上	宇野 清文	同上	平成29年5月20日	令和3年5月14日	同上	総務 大会運営	三協立山(株) サステナビリティ推進部 部長
同上	黒木 康徳	同上	令和3年5月14日		同上	研究	(株)IHI 戦略技術統括本部 企画調査部 主幹
同上	谷畑 弘之	同上	令和3年5月14日		同上	男女共同	YKK AP(株) 生産本部 素材技術部 技術企画室 主幹
同上	中沢 靖	同上	平成29年5月20日	令和3年5月14日	同上	総務	(株)本田技術研究所先進技術研究所 エキスパートエンジニア AMG
同上	久幸 晃二	同上	平成29年5月20日	令和3年5月14日	同上	参与会* 国際交流	昭和電工(株) 融合製品開発研究所 所長
同上	戸次洋一郎	同上	平成29年5月20日	令和3年5月14日	同上	研究*	(株)UACJ R&D センター 第1研究部 上席主幹
同上	増田 勝昭	同上	令和2年5月22日	令和3年5月14日	同上	企画*	(株)神戸製鋼所 鉄鋼アルミ事業部門 技術企画部 部長
監事	橘内 透	同上	平成29年5月20日	令和3年5月14日	同上	監事	ヤマハモーターエレクトロニクス(株) 代表取締役社長
同上	佐々木 元	同上	令和3年5月14日		同上	同上	広島大学教授

[2] 職員に関する事項

職名	氏名	常勤・非常勤	採用年月日	担当事務	備考
事務局長	石川和徳	常勤	平成25年1月1日	全般	平成25年6月1日就任
職員	前田その美	非常勤	平成8年4月1日	庶務	令和3年10月1日再雇用
職員	木村明子	常勤	平成8年4月1日	庶務・編集	
職員	中村秀樹	非常勤	平成28年2月1日	経理	
職員	ハンソン千文	非常勤	令和3年10月1日	編集	

[3]会議等に関する事項

1. 総会

会議名	開催令和年月日	議事事項	会議の結果
令和3年度 定時総会	3年5月14日	1. 令和2年度事業報告に関する件(報告事項) 2. 令和2年度決算報告に関する件(審議事項) 3. 令和3年度事業計画の件(報告事項) 4. 令和3年度収支予算に関する件(報告事項) 5. 令和3・4年度役員の選任に関する件(審議事項)	1. 賛成 829 名、原案通り確認。 2. 賛成 829 名、原案通り承認可決。 3. 賛成 829 名、原案通り確認。 4. 賛成 829 名、原案通り確認。 5. 賛成 829 名、原案通り承認可決。

2. 理事会

会議名	開催令和年月日	議事事項	会議の結果
第 76 回	3 年 4 月 23 日	【審議事項】 1. 令和3・4年度役員追加変更に関する件 2. 令和3年度定時総会に関する件 ①令和元年度事業報告に関する件 ②令和元年度決算報告に関する件 3. 定時総会開催に関する件 4. 会員異動に関する件 【報告事項】 1. 他学会との協賛事業の件 2. 常設委員会報告の件	【審議事項】 1. 原案の通り全員異議なく承認可決。 2. 全員異議なく承認可決。 3. 議決権行使をはがき表決で実施、理事会メンバーのみ参加方式で開催を承認。議案掲載前の議決権行使の扱い取り決め。 4. 原案の通り全員異議なく承認可決。 【報告事項】 1. 全員異議なく、確認した。 2. 資料に基づき報告。
第 77 回	3 年 5 月 14 日	1. 会長及び副会長選任に関する件 2. 役員の業務担当に関する件	1. 原案の通り全員異議なく承認可決。 2. 原案の通り全員異議なく承認可決。
第 78 回	3 年 6 月 24 日	【審議事項】 1. 常設・選考委員会委員選任に関する件 2. 軽金属躍進賞、奨励賞、女性未来賞選考に関する件 3. 第 142 回春期大会実行委員会委員構成案および予算書案に関する件 4. 規程類の改定 Mater. Trans. 投稿助成 5. 創立 70 周年記念表彰に関する件 6. 会員異動に関する件 【報告事項】 1. 第 140 回春期大会収支決算報告 2. 他学会との協賛事業に関する件 3. 常設委員会報告 4. その他 ・ICAA18 準備状況 ・学会指標 ・理事会日程変更	【審議事項】 1. 原案の通り全員異議なく承認可決。 2. 原案の通り全員異議なく承認可決。 3. 原案の通り全員異議なく承認可決。 4. 原案の通り全員異議なく承認可決。 5. 原案の通り全員異議なく承認可決。 6. 原案の通り全員異議なく承認可決。 【報告事項】 1. 全員異議なく、確認した。 2. 全員異議なく、確認した。 3. 編集、企画、総務、支部長会報告。 4. 資料に基づき報告。
第 79 回	3 年 9 月 30 日	【審議事項】 1. 軽金属論文賞・論文新人賞、小山田記念賞、高橋記念賞に関する件 2. 軽金属奨学会 Mater. Trans. 投稿助成選考に関する件 3. 事務局職員再雇用に伴う派遣採用に関する件 4. 規程改定に関する件 5. 会員異動に関する件 6. 常設委員会委員変更の件 【報告事項】 1. ICAA18 進捗報告 2. 70 周年記念事業進捗 3. 他学会との協賛事業に関する件 4. 7 月・9 月の常設委員会報告	【審議事項】 1. 原案の通り全員異議なく承認可決。 2. 原案の通り全員異議なく承認可決。 3. 原案の通り全員異議なく承認可決。 4. 会員規程、会費規程改定を全員異議なく承認可決。 5. 原案のとおり全員異議なく承認可決。 6. 原案のとおり全員異議なく承認可決。 【報告事項】 1. 資料に基づき報告。 2. 資料に基づき報告。 3. 資料に基づき報告。 4. 男女共同、編集、総務、大会運営、企画委員会から報告。

第 80 回	3 年 10 月 28 日	【審議事項】 1. 第 24 回軽金属学会功労賞、第 20 回軽金属功績賞に関する件 2. 中間決算・監査報告 3. 規程改定に関する件 4. 会員異動・選考委員交代に関する件 【報告事項】 1. 支部 70 周年事業報告 2. 他学会との協賛事業に関する件 3. 10 月開催常設委員会報告 4. 70 周年記念式典準備状況尾報告 5. 第 141 回秋期大会オンライン参加案内	【審議事項】 1. 原案の通り全員異議なく承認可決。 2. 原案の通り全員異議なく承認可決。 3. 会費、大会、Mater. Trans. 投稿助成、就業規則規程などを原案の通り全員異議なく承認可決。 4. 原案の通り全員異議なく承認可決。 【報告事項】 1. 資料に基づき報告。 2. 資料に基づき報告。 3. 資料に基づき報告。 4. 資料に基づき報告。 5. 資料に基づき報告。
第 81 回	4 年 1 月 21 日	【審議事項】 1. 軽金属希望の星賞選考に関する件 2. 第 142 回春期大会開催形態変更に関する件 3. 第 143 回秋期大会実行委員構成及び予算案に関する件 4. 研究部会新設、1 年延長の件 5. 規程類の改定に関する件 6. 令和 4 年度支部費配賦額に関する件 7. 会員異動、委員交代に関する件 【報告事項】 1. 第 141 回秋期大会収支報告の件 2. 他学会との協賛事業の件 3. 常設委員会報告の件 4. その他	【審議事項】 1. 原案の通り全員異議なく承認可決。 2. オンライン開催を全員異議なく承認可決。 3. 原案の通り全員異議なく承認可決。 4. 原案の通り全員異議なく承認可決。 5. 競争法コンプライアンス指針を全員異議なく承認可決。 6. 原案の通り全員異議なく承認可決。 7. 原案の通り全員異議なく承認可決。 【報告事項】 1. 資料に基づき報告。 2. 資料に基づき報告。 3. 資料に基づき報告。 4. ICAA18、70 周年記念事業報告、2022 年度理事会開催日程を報告。
第 82 回	4 年 2 月 24 日	【審議事項】 1. 令和 4 年度特別維持会員会費に関する件 2. 令和 4 年度定時総会開催に関する件 3. 支部長交代に関する件 4. 会員異動、委員交代に関する件 【報告事項】 1. 令和 3 年度収支決算見込みおよび令和 4 年度予算案に関する件 2. 他学会との協賛事業の件 3. 常設委員会報告の件	【審議事項】 1. 原案の通り全員異議なく承認可決。 2. 原案の通り全員異議なく承認可決。 3. 原案の通り全員異議なく承認可決。 4. 原案の通り全員異議なく承認可決。 【報告事項】 1. 全異議なく予決算案を確認した。 2. 資料に基づき報告。 3. 資料に基づき報告。
第 83 回	4 年 3 月 24 日	【審議事項】 1. 令和 4 年度事業計画に関する件 2. 令和 4 年度収支予算に関する件 3. 令和 3・4 年度役員補充に関する件 4. 会員異動に関する件 【報告事項】 1. 支部令和 3 年度活動報告および令和 4 年度活動計画について 2. 研究部会令和 3 年度事業報告および令和 4 年度事業計画について 3. 他学会との協賛事業の件 4. 常設委員会報告の件	【審議事項】 1. 原案の通り全員異議なく承認可決。 2. 原案の通り全員異議なく承認可決。 3. 原案の通り全員異議なく承認可決。 4. 原案の通り全員異議なく承認可決。 【報告事項】 1. 全員異議なく、確認した。 2. 全員異議なく、確認した。 3. 全員異議なく、確認した。 4. 資料に基づき報告。

3. 常設委員会

(1) 総合計画委員会

会議名	開催令和年月日	議事事項	会議の結果
第 12 回	3 年 4 月 23 日	1. 令和 2 年度決算および令和 3 年度予算案について 2. 常設委員会令和元年・2 年度活動報告と引継事項	1. 原案のとおり確認。 2. 令和 2 年度活動まとめ内容を確認し、令和 3 年度活動課題を確認。著作物等のあり方検討 WG のまとめ資料の会誌掲載を決定。

第1回	3年6月24日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期委員会からの引継事項 2. 今期委員会活動計画 ・100周年に向けた長期ビジョン 3. 70周年記念事業 ・実行委員会体制案 ・記念表彰 ・記念式典(秋期大会オンライン開催対応) 4. その他 ・学会指標 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原案のとおり確認。 2. 原案のとおり確認。 ・各常設委員会での検討を要請。 3. 下記のとおり承認。 ・実質総合計画委員に引継。 ・各賞受賞者、感謝状対象者を承認。 ・9月理事会までに決定。 4. 会員推移他報告
第2回	3年10月28日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 支部70周年記念事業進捗 2. 上期決算報告 3. 令和4年度支部費配賦案 4. 総合計画委員会課題進捗 ①70周年記念式典 ②会員増強WG活動 ③長期ビジョン 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各支部から事業報告。 2. 決算内容確認。 3. 配賦案承認。今後支部長合意確認。 4. 下記報告、討議。 ①理事会報告とし、省略。 ②入退会動機、傾向現状調査実施。生産技術関連テリトリー拡大を各委員会で検討。 ③若手部会設置支援、講演ビデオオンデマンド化、他協議継続
第3回	4年1月21日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 70周年事業実施状況・収支決算中間報告 2. 生産技術に関する情報共有 3. 長期ビジョン議論 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 記念式典、表彰実施。支出予算740万円に対して、実績500万円。 2. カーボンニュートラルに関する研究部会発足検討。他学会調査実施。 3. 常設委員会報告。イベントオンライン開催、セミナー講演オンデマンド化、生産技術を扱う技術部会発足、若手研究部会発足、会誌電子化、国際賞他、具体策を今後協議。
第4回	4年2月24日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和3年度決算および令和4年度予算案について 2. 長期ビジョン報告 3. 生産技術に関する各種学会活動の拡充 4. ICAA18進捗報告 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 70周年記念事業の決算見込みとICAA18の予算案を確認。 2. 常設委員会報告。 3. 委員長私案、短期、中期、長期の方針・アプローチ案を説明。 4. 欧州参加者の講演時間を考慮したプログラム編成時間枠設定、ハイブリッド開催予算案を報告。
第5回	4年3月24日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和4年度事業計画・予算案(第2次) 2. 支部令和3年度活動報告と令和4年度活動計画 3. 長期ビジョン報告 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原案のとおり確認。 2. 関東、関西支部の70周年記念事業報告を確認。 3. 総務、編集委員会の報告を受け、長期ビジョン取りまとめ方を協議。学会が扱う学術・技術範囲の拡張について、短中長期ビジョンをまとめる。生産技術・加工技術関連の研究部会検討WGを設置。企業アンケートを9月までに実施予定。

(2)総務委員会

会議名	開催令和年月日	議事事項	会議の結果
第294回	3年5月26日	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人材育成検討WG報告 ・製品供与・貸与事業 ・中高生ポスター発表 ・高度人材育成事業 2. 規程・会員特典WG報告 ・Mater. Trans.投稿助成規程 3. HP・広報WG報告 ・70周年記念HP ・パンフレット改訂 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 下記実施事項検討。 ・大学5名申込に対応中。 ・141回秋期大会オンライン開催のため、延期。 ・ドクター講師のセッション仮題「博士が活躍する場所」で3名講演予定。軽金属奨学会の特別奨学生講演セッションも企画(大会運営委員会) 2. 下記実施事項検討。 ・関連規程、選考細則承認。 3. 下記実施事項検討。 ・4月1日オープン。 ・4月中旬改訂、支部に配布。

		<ul style="list-style-type: none"> 4. 70周年記念式典について ・表彰内容・選考方法 5. 70周年記念会員増強キャンペーン 6. その他 ・会員管理システム更新状況 	<ul style="list-style-type: none"> 4. 下記実施事項検討。 ・各賞候補者案承認。選考基準一部修正の上、6月理事会上申。 5. HP 会告、入会申請書更新。 6. 下記、実施事項報告。 ・5月末切替予定。
第 295 回	3 年 8 月 5 日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 引継事項と今期活動について 2. 人材育成検討 WG 報告 3. 規程・会員特典・式典検討 WG 報告 4. 広報検討 WG 報告 5. 70周年記念式典 6. 会員増強 WG 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 引継事項確認、WG メンバー案承認。 2. 高校生ポスター発表は第 142 回大会時に一般ポスターセッションと同時開催、高度人材育成事業:ドクター支援策として、第 141 回秋期大会で「企業で活躍するドクター」セッション開催。 3. 来年度特別維持会員脱退、新会費制度に関する経過措置終了に応じた会員規程、会費規程改定案承認。論文賞・論文新人賞規程、推薦・選考委員会運営細則改定。 4. 大学研究室紹介、維持会員企業製造工程等、HP への動画掲載依頼実施予定。 5. 11月12日に大会表彰式は実施せず、式典単独開催。祝辞ビデオ配信、表彰式用動画作成など検討。 6. 会費制度見直しの効果検証、初年度会費無料キャンペーンを実施し、会員減少対策を実施。
第 296 回	3 年 10 月 11 日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 人材育成検討 WG 報告 ・高度人材育成事業 ・例年事業検討 製品供与・貸与事業、ライトメタルリクルート ・科学実験室 ・高校生ポスター 2. 規程・会員特典 WG 報告 ・規程類改定 ・70周年記念式典 3. HP・広報 WG 報告 ・HP 魅力度アップ ・和英版 HP メンテナンス ・70周年記念 HP 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 下記実施事項検討。 ・141 回秋期大会男女共同セッション企画、企業採用状況アンケート展開。 ・次回改善案検討。 ・産総研重量比較サンプル利用 DVD 作成 ・第 142 回実行委員長意見報告。 2. 下記実施事項検討。 ・休会申請、Mater. Trans. 投稿助成、会費、競争法遵守、大会、職員就業規程等改定、検討。 ・式典・表彰内容報告。 3. 下記実施事項検討。 ・研究室紹介・工場見学動画掲載依頼 ・グーグルスプレッドシート利用 ・70年の歩み改定。
第 297 回	4 年 1 月 14 日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 人材育成検討 WG 報告 ・中高生ポスター発表 ・高度人材育成事業 ・ライトメタルリクルート募集 ・製品供与・貸与事業 2. 規程・会員特典 WG 報告 ・会誌送付要否意向確認 ・競争法遵守規程案 3. HP・広報 WG 報告 ・研究室/研究機関紹介コーナー更新 ・製造工程動画掲載 ・HP 更新チェック ・入会案内パンフレット改定 4. 70周年記念式典・特設 WEB サイト更新報告 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 下記実施事項検討。 ・142 回春期大会開催中止。 ・141 回秋期大会での第 5 回男女共同セッション開催報告。学生参加増加必要。 ・1 月末募集開始。3 月 1 日掲載。 ・製品見直、ユーザー企業製品断念。 2. 下記実施事項報告。 ・マイページ申請実施。2 月末締切。 ・競争法コンプライアンス指針承認。 3. 下記実施事項報告。 ・26 件掲載。 ・2 社動画を追加。 ・常設委員会へ再度チェック要請。 ・会費関係経過措置終了を反映、その他、修正内容検討。6 月改定。 4. 下記実施事項報告、検討。 ・記念表彰の大型楯など一般表彰授与物検討。 ・記念事業ページ更新。 ・事業支出 500 万円。

		<p>5. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期ビジョン ・令和3年度軽金属希望の星賞2次選考 ・企業奨励賞確認 ・オンライン化アンケート 	<p>5. 下記報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各WGでのビジョン検討要請。 ・34名承認、理事会上申決定。 ・支部推薦の2社確認。 ・回答結果確認。
第298回	4年3月7日	<p>1. 人材育成検討WG報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生ポスター発表 ・ライトメタルリクルート募集 ・製品供与・貸与事業 <p>2. 規程・会員特典WG報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会誌送付要否意向確認 ・休会申請対応 <p>・表彰授与物検討</p> <p>3. HP・広報WG報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製造工程動画HP掲載 ・バーチャル工場見学HP掲載 ・HP更新チェック <p>・入会案内パンフレット改定</p> <p>4. 長期ビジョン</p>	<p>1. 下記実施事項検討。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大会実行委員会受入可能時に実施。 ・26社申込、HP掲載。アクセス解析。 ・3月15日申込受付開始。 <p>2. 下記実施事項報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会誌送付不要447名。 ・申請期間中に4件申請。2件受理。休会理由の対象拡大を検討。 ・学会賞副賞(銀皿)、論文賞楯など、検討継続。 <p>3. 下記実施事項報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HP説明文、各社動画説明文追記。 ・事例紹介、今後掲載検討。 ・常設委員会からの反応がなく、事務局確認要請。再度チェック方法検討。 ・研究部会に計算工学分野追加、共同刊行誌、オンライン大会など追記。6月改定。 <p>4. 下記実施事項報告、検討。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学会が扱う生産技術関連範囲拡張について、横串組織を設置し、企業にアンケート実施を提案。 ・「アルミニウムの組織と性質」の改定、マグネシウム、チタンの追加提案。

(3)企画委員会

会議名	開催令和年月日	議事事項	会議の結果
第9回	3年5月20日	<p>1. 第115回シンポジウム開催報告</p> <p>2. シンポジウム、セミナー日程再調整</p> <p>3. チタン関係シンポジウム検討</p> <p>4. 新規企画具体案について</p> <p>5. 会員増強キャンペーン</p> <p>6. オンライン開催</p>	<p>1. 資料に基づき報告。</p> <p>2. 6月11日開催予定の114回シンポジウムのオンライン開催検討。9月以降開催予定の116回シンポジウムもオンラインで早期開催検討。</p> <p>3. 発足したチタン学会の教育講座との棲み分け検討。</p> <p>4. 進捗なし。Mg、接合シンポジウムの世話人増強検討。</p> <p>5. 入会申込書修正。</p> <p>6. 支部開催状況報告。利用検討。</p>
第1回	3年7月13日	<p>1. 引継事項について</p> <p>2. 第114回シンポジウム開催報告</p> <p>3. 第116回シンポジウムオンライン開催</p> <p>4. セミナーオンライン開催検討</p> <p>5. 新規シンポジウム・セミナー具体案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第117回飲料容器シンポジウム ・第118回マグネシウム接合シンポジウム ・第119回自動車熱マネジメントシンポジウム ・第120回鉄道車両シンポジウム ・第121回チタンセミナー・シンポジウム ・第122回接合シンポジウム ・第123回分析・解析シンポジウム ・第124回3D造形シンポジウム ・第125回衝撃、高速変形シンポジウム ・第126回金型シンポジウム ・35回マグネセミナー ・第4回工場見学会(日本車輛) 	<p>1. 会長方針を反映した今期活動計画、企画イベントの進め方を確認。</p> <p>2. 資料に基づき報告。</p> <p>3. 8月27日開催。</p> <p>4. 講師同意が得られ、実施準備。</p> <p>5. 各テーマについて、担当見直し、会告準備。</p>

		6. 軽金属基礎技術講座について 7. その他	6. 11月25-26日開催、講師交代確認。 7. 企画委員会イベント収支報告。
第2回	3年9月10日	1. 第116回シンポジウム開催報告 2. セミナーオンライン開催検討 3. 軽金属基礎講座について 4. 新規シンポジウム・セミナー具体案について ・第117回マグネシウム接合シンポジウム ・第118回飲料容器シンポジウム ・第119回3D造形シンポジウム ・第120回自動車熱マネジメントシンポジウム ・第121回チタンシンポジウム ・第122回接合シンポジウム ・第123回分析・解析シンポジウム ・第125回衝撃・高速変形シンポジウム ・第127回オンライン化シンポジウム ・35回マグネシウムセミナー	1. 資料に基づき報告。 2. 質問対応方法検討。中級編10月1日、応用編10月22日開催。 3. 講師順番変更、会告案作成。 4. 各テーマについて、日程設定 ・11月25日開催 ・12月開催 ・1月11-13日開催(会告10月) ・2月開催 ・3月開催 ・3月開催 ・来年9-10月開催(会告6月) ・6月開催(会告2月) ・内容について理事会意見聴取必要。 ・今年度中開催(関東支部支援事業)
第3回	3年11月17日	1. セミナー中級編、応用編開催報告 2. 軽金属基礎技術講座について 3. 第117回マグネシウム接合シンポジウム 4. 新規シンポジウム・セミナー具体案について ・第118回オンライン化シンポジウム ・第119回飲料容器シンポジウム ・第120回自動車熱マネジメントシンポジウム ・第121回チタン関連シンポジウム ・第122回接合シンポジウム ・3D造形シンポジウム 5. 長期ビジョン案議論 ・シンポジウム ・セミナー ・基礎講座 ・オンデマンド化	1. 資料に基づき報告。 2. 11月25-26日開催の最終確認。 3. 11月25日開催の最終確認。 4. 各テーマについて、日程設定 ・1月18日開催予定 ・2月開催予定 ・2月開催予定 ・3月開催予定 ・3月開催予定 ・次年度に延期 5. 生産技術テーマ取入れを検討 ・年間計画、顧客目線テーマ設定 ・社会人:学び直し、 学生:軽金属の開発・製造に興味を持つプログラム ・生産技術テーマ ・アーカイブ作成、体系化
第4回	4年1月19日	1. 第117回マグネシウム接合シンポジウム開催報告 2. セミナー入門編開催報告・アンケート結果 3. 軽金属基礎技術講座開催報告・アンケート結果 4. 第118回オンライン化シンポジウム開催概要報告 5. 新規シンポジウム・セミナー具体案について ・第119回接合シンポジウム ・第120回自動車熱マネジメントシンポジウム ・第121回飲料容器シンポジウム ・第122回チタン関連シンポジウム ・マグネシウムセミナー ・第123回3D造形シンポジウム ・第124回衝撃・高速変形シンポジウム 6. 長期ビジョン案議論 ・シンポジウム ・セミナー ・基礎技術講座 ・工場見学会	1. 資料に基づき報告。 2. 資料に基づき報告。 3. 資料に基づき報告。講師改善点協議。 4. 59名参加。開催報告記事、アンケート結果集計準備中。 5. 各テーマについて、日程設定 ・3月8日開催準備状況確認。 ・3月10日開催準備状況確認。 ・3月17日開催準備状況確認。 ・3月23日開催準備状況確認。 ・3月25日開催会告。 ・次年度6月に延期。 ・次年度6月に開催予定。 6. 生産技術テーマ取入れを検討。 ・年4回、内生産技術1回開催。 ・講演オンデマンド配信検討。 ・ハイブリッド開催・オンデマンド化検討。 ・オンライン見学会検討。
第5回	4年3月11日	1. 第117回マグネシウム接合シンポジウム開催報告 2. セミナー中級編開催報告・アンケート結果 3. セミナー応用年開催報告・アンケート結果 4. 第119回マルチマテリアル接合シンポジウム開催概要報告	1. 資料に基づき開催報告。 2. 資料に基づき報告。 3. 資料に基づき報告。 4. 51名参加。開催報告記事、アンケート結果集計準備中。テキスト掲載内容講師依頼方法検討。

		<p>5. 第 120 回熱マネジメントシンポジウム開催概要報告</p> <p>6. 3 月開催 3 件最終確認</p> <p>7. 新規シンポジウム・セミナー具体案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 123 回 3D 造形シンポジウム ・第 124 回衝撃・高速変形シンポジウム <p>6. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期ビジョン ・講師依頼方法見直し <ul style="list-style-type: none"> ・軽金属奨学会シンポジウム助成申請 ・オンライン化アンケート結果 	<p>5. 115 名参加。テキスト原稿の著作権取扱いについて、規程改定検討。</p> <p>6. 121 回、122 回シンポジウム、35 回マグネセミナー状況確認。</p> <p>7. 各テーマについて、日程設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6 月 15 日開催準備状況確認。 ・6 月 28 日開催準備状況確認。 <p>6. 下記内容を議論。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産技術テーマ案 WG 検討。 ・著作権譲渡、使用許諾、テキスト販売などの可否を確認。 ・第 123 回、124 回を申請。 ・結果をメール送信。
--	--	---	--

(4)編集幹事会・委員会

会議名	開催令和年月日	議事事項	会議の結果
令和 3 年度 第 1 回編集 委員会	3 年 5 月 18 日	<p>1. 軽金属誌の現況</p> <p>2. Mater. Trans. 投稿助成会告</p> <p>3. 70 周年記念特集号、2022 年 5 月号特集</p> <p>4. 引継事項</p>	<p>1. 今後の刊行予定確認。</p> <p>2. 規程類を準備し、HP にて執筆者募集予定。5 月 19 日会告。</p> <p>3. 資料に基づき報告。</p> <p>4. 論文、解説投稿増加策として、編集委員に毎月特集号企画を要請。</p>
第 620 回	3 年 5 月 18 日	<p>1. 軽金属 6-7 月号の進捗状況報告</p> <p>2. 校閲状況報告・確認</p> <p>3. 軽金属 7 月号掲載内容報告・確認</p> <p>4. 軽金属誌活性化状況報告</p> <p>1)規程整備 G 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Mater. Trans. 投稿助成 <p>2)解説記事 G 報告</p> <p>3)連載講座 G 報告</p> <p>4)その他</p>	<p>1. 進捗状況を確認。目標変更:論文掲載数毎月 5 編</p> <p>2. 校閲状況を確認。</p> <p>3. 掲載内容を確認。</p> <p>4. 各 G 検討結果報告。</p> <p>1)5 月 26 日総務委員会上申の規程、選考細則、推薦書案承認。</p> <p>2)座談会トヨタ自動車決定。</p> <p>3)特集号(積層造形)世話人報告。70 周年記念特集号原稿チェック担当決定。</p> <p>4)引継事項:論文投稿増加策として、編集委員に特集号毎月担当割り当。</p>
第 621 回	3 年 7 月 26 日	<p>1. 引継事項と今期活動について</p> <p>2. 軽金属 8-9 月号の進捗状況報告</p> <p>3. 校閲状況報告・確認</p> <p>4. 軽金属 9 月号掲載内容報告・確認</p> <p>5. 軽金属誌活性化状況報告</p> <p>1)規程整備 G 報告</p> <p>2)解説記事 G 報告</p> <p>3)特集・連載講座 G 報告</p>	<p>1. 引継事項確認、G メンバー承認。</p> <p>2. 進捗状況を確認。</p> <p>3. 校閲状況を確認。</p> <p>4. 掲載内容を確認。</p> <p>5. 各 G 検討結果報告。</p> <p>1)Mater. Trans. 投稿助成申請 1 件、選考委員会開催予定。</p> <p>2)トヨタ自動車トップ座談会日程調整、私の一枚冊子完成。委員に解説記事提案要請。</p> <p>3)70 周年特集号記事の 70 周年記念特設 WEB サイト掲載を総務委員会に上申。別途企画打ち合わせ実施。</p>
第 622 回	3 年 9 月 24 日	<p>1. 軽金属 10-11 月号の進捗状況報告</p> <p>2. 校閲状況報告・確認</p> <p>3. 軽金属 11 月号掲載内容報告・確認</p> <p>4. 軽金属誌活性化状況報告</p> <p>1)規程整備 G 報告</p> <p>2)解説記事 G 報告</p> <p>3)特集・連載講座 G 報告</p>	<p>1. 進捗状況を確認。</p> <p>2. 校閲状況を確認。</p> <p>3. 掲載内容を確認。</p> <p>4. 各 G 検討結果報告。</p> <p>1)MT 投稿助成選考委員会報告。同規程改定。</p> <p>2)トップ座談会 10 月 4 日オンライン開催。解説記事提案について、執筆要請。編集委員にも提案要請。掲載号提示は 6 か月後を目安。</p> <p>3)研究部会特集号。耐火物部会は令和 4 年 11 月号、高強度、水素、マグネ部会と調整。連載講座は「最新の分析機器・加工装置の特徴と可能性についての解説」</p>

			について趣旨文、題目、著者検討。
令和3年度 第2回編集 委員会	3年11月30日	1. 軽金属誌の現況 2. 解説記事の増加 3. 特集号について 4. Mater. Trans. 報告	1. 今後の刊行予定確認。 2. 解説投稿提案を要請。 3. 2022年11月特集号、耐火物部会他、研究部会特集号予定。 4. 査読システムの2段階認証連絡。
第623回	3年11月30日	1. 軽金属12-1月号の進捗状況報告 2. 校閲状況報告・確認 3. 軽金属1月号掲載内容報告・確認 4. 軽金属誌活性化状況報告 1) 規程整備 G 報告 2) 解説記事 G 報告 3) 特集・連載講座 G 報告 5. その他	1. 進捗状況を確認。 2. 校閲状況を確認。 3. 掲載内容を確認。 4. 各 G 検討結果報告。 1) 著作物の利用ガイドライン改定。 2) 次回トップ座談会案作成。宇宙、家電、食品について案作成。解説記事提案を編集委員に要請。 3) G リーダー交代、連載講座12回のうち、4回執筆内諾、他8回執筆者検討 5. 長期ビジョン検討、生産技術関係記事検討、70周年特集号のWEBサイト掲載、ICAA18講演申込状況確認、論文投稿数増加策として研究部会へ投稿要請、オンライン化アンケート実施。
第624回	4年1月25日	1. 軽金属2-3月号の進捗状況報告 2. 校閲状況報告・確認 3. 軽金属3月号掲載内容報告・確認 4. 軽金属誌活性化状況報告 1) 規程整備 G 報告 2) 解説記事 G 報告 3) 特集・連載講座 G 報告 5. その他	1. 進捗状況を確認。 2. 校閲状況を確認。 3. 掲載内容を確認。 4. 各 G 検討結果報告。 1) MT 投稿助成4月会告案、令和3年度候補者投稿状況確認。 2) トップ座談会：三菱重工業。解説記事提案案件承認。9月ミニ特集：脱炭素化を検討。 3) 連載講座9回を9月掲載開始。 5. 長期ビジョン：会誌電子化検討、MTのICAA18特集に123件の投稿希望対応策。
第625回	4年3月28日	1. 軽金属4-5月号の進捗状況報告 2. 校閲状況報告・確認 3. 軽金属5月号掲載内容報告・確認 4. 軽金属誌活性化状況報告 1) 規程整備 G 報告 2) 解説記事 G 報告 3) 特集・連載講座 G 報告 5. その他 ・長期ビジョン ・MT 編集委員会報告	1. 進捗状況を確認。 2. 校閲状況を確認。 3. 掲載内容を確認。連載講座掲載。 4. 各 G 検討結果報告。 1) MT 投稿助成選考委員会運営細則改定案、4月会告案確認。 2) トップ座談会：三菱重工業打診状況。解説記事提案案件依頼状況確認。 3) 5月、6月特集掲載内容、9月ミニ特集内容確認。年4回特集号計画、 5. 下記内容を議論。 ・アルミニウムの組織と性質改定版(60周年記念出版)、シンポジウムテキストなど会員無料閲覧サービス検討。 ・投稿アクセプト連絡早期化のため、編集委員会規程改定案検討。

(5)-1 国際交流委員会

会議名	開催令和年月日	議事事項	会議の結果
第8回	3年4月12日	1. ALMA2020 MOU 締結方法 2. 英語ポスター賞審査一本化 3. 引継事項	1. 2022年調印、それまでは調印なしで、ALMA運営。 2. 規程改定、第140回春期大会で正式実施。英語ポスター増加策協議。 3. 内容確認。国際賞検討追加。
第1回	3年10月26日	1. 引継事項確認 2. ALMA2022 Forum & Meeting	1. 引継内容を確認し、今期担当選任。 2. 1st サーキュラ、東京工業大学会場案、予算案。

		<p>3. 軽金属国際フォーラム</p> <p>4. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICAA18 進捗 ・長期ビジョン 	<p>3. 70周年記念事業であるが、フラウンホーファー第3弾を対面開催予定。</p> <p>4. 下記報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演申込開始、招待講演依頼、ハイブリッド開催形態検討。 ・国際賞再考ほか、タイセミナー第2弾、国際会議参加サポートなど案出し。
第2回	3年12月9日	<p>1. ALMA2022 Forum & Meeting</p> <p>2. 国際賞検討</p> <p>3. 海外セミナー</p> <p>4. チタン、マグネシウム協会連携強化、軽金属国際会議</p> <p>5. 英語ポスター発表者増加策</p> <p>6. 長期ビジョン</p> <p>7. ICAA18 進捗</p> <p>8. オンライン化アンケート</p>	<p>1. 1st サーキュラ各国内、ICAA18 案内、日本人講演者、見学先検討。</p> <p>2. 候補者検討、規程類整備。</p> <p>3. 2023年6月タイ開催に向け、2022年6月までに案作成。見学追加。</p> <p>4. 国内フォーラム開催により連携、将来、国際会議への発展検討。</p> <p>5. 143回秋期大会実施に向け、増加策検討。2022年5月末案まとめ。</p> <p>6. 国際賞他今後議論継続。</p> <p>7. 講演申込150件、申込期限1月10日まで延長。</p> <p>8. 回答催促</p>
第3回	4年2月21日	<p>1. ALMA2022 Forum & Meeting</p> <p>2. 国際賞検討</p> <p>3. 英語ポスター発表者増加策</p> <p>4. 長期ビジョン</p> <p>5. ICAA18 進捗</p> <p>6. オンライン化アンケート</p>	<p>1. オンライン開催に変更。</p> <p>2. 規程案提示。推薦候補者リスト作成し、表彰継続性判断。</p> <p>3. 希望の星賞の選考基準に受賞経験追記。</p> <p>4. 国際賞、独自国際会議開催など議論継続。</p> <p>5. 講演申込314件。欧州講演者講演時間を考慮したプログラム編成時間枠設定、ハイブリッド開催形態・予算検討中。</p> <p>6. 回答結果報告。</p>

(5)-2ICAA18 組織委員会、実行委員会

会議名	開催令和年月日	議事事項	会議の結果
ICAA18 第9回実行委員会	3年5月25日	1. 各WG進捗報告	<p>1. 下記報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレナリーリスト作成し、メールアドレス調査、内諾伺い後に講演依頼レター送付。 ・北藺論文審査・編纂WG長継続、特任編集委員として退任した編集幹事に参加。 ・WEBプラットフォームや時差を考慮したプログラム案準備を会場WGが進める。 ・展示、工場見学、エクスカージョンも、オンライン、ハイブリッドとなった場合の富山の特徴を示す具体的な開催方法、内容を出せるように電子化、ビデオ検討
ICAA18 第10回実行委員会	3年7月20日	1. 各WG進捗報告	<p>1. 下記報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2nd サーキュラ作成。 ・招待講演依頼文書案作成。 ・300字アブストラクト登録サイト確認。 ・ポスター賞審査採点方法決定。 ・オンライン、ハイブリッド開催形態、開催時間、タイムテーブル案作成。 ・9月展示打診、来年3月工場見学先打診。
ICAA18 第8回組織委員会	3年8月2日	1. プログラム・サーキュラWG報告	<p>1. 下記報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2nd サーキュラ(Web版)作成:開催形態、決定時期情報追加。 ・講演依頼文に開催形態追加。⇒候補者に送付

		2. 会場・講演会・バンケット WG 報告	<ul style="list-style-type: none"> ・講演申込(300 ワード)受付 WEB サイト 8 月末オープン:テストサイトの事前チェック実施 ・ECR 申込案内、賞金検討 ・1 ページアブストラクト査読チェック内容、査読担当検討 <p>2. ハイブリッド開催検討:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本に合わせた 9-19 時開催、ポスター審査はオンラインで統一
ICAA18 第 11 回実行委員会	3 年 9 月 24 日	1. 各 WG 進捗報告	<p>1. 下記報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9 月 2 日講演登録サイト公開。 ・招待講演者に講演依頼。 ・12 月 1 日申込締切後、受理採択、プログラム編成開始、1 ページアブストラクト査読担当決定。 ・ハイブリッド開催方式、会場案、ポスター発表・審査方法具体化。 ・展示依頼準備中。各社展示パネル作成とし、統一パネル作成なし。 ・エクスカージョン HP 案内準備。
ICAA18 第 9 回組織委員会、第 12 回実行委員会	3 年 11 月 22 日	<p>1. 講演申込状況と増加対策</p> <p>2. 参加登録料の検討</p>	<p>1. 現在 56 件申込。12 月 1 日締切を 1 月 10 日に延期、ハイブリッド開催で申込増を図る。1 名でオーラルとポスター発表可能とする。参加登録料は各々必要。</p> <p>2. 次回、提案</p>
ICAA18 第 10 回組織委員会、第 13 回実行委員会	3 年 12 月 21 日	<p>1. オンライン参加登録費検討</p> <p>2. 講演申込件数報告</p> <p>3. Mater. Trans.査読体制増強</p> <p>4. 展示・エクスカージョン進捗</p> <p>5. ハイブリッド開催予算見直し</p> <p>6. 国際委員会日時調整</p>	<p>1. 懇親会費用 1 万円払戻で変更なし。</p> <p>2. 約 170 件、海外 60 名。</p> <p>3. 70 件投稿希望に査読者増員検討。</p> <p>4. ハイブリッド開催でのオンライン展示・富山紹介追加。有料展示趣旨書、料金検討。</p> <p>5. 310 名、1 会場開催、オンライン参加登録料追加検討。講演数、参加者数予想確度をアップし、次回報告。</p> <p>6. 9 月 7 日 14-15:30(パリ時間)開催。</p>
ICAA18 第 11 回組織委員会、第 14 回実行委員会	4 年 1 月 24 日	<p>1. 講演件数報告</p> <p>2. プログラム WG</p> <p>3. 論文審査 WG</p> <p>4. 展示・エクスカージョン進捗</p> <p>5. 参加費 HP 掲載</p> <p>6. ハイブリッド開催予算見直し</p>	<p>1. オーラル 272 件、ポスター 48 件の合計 314 件。MT 特集投稿希望者 123 名。</p> <p>2. 5-6 会場割付案。300 ワード原稿チェック後、講演受領通知。</p> <p>3. リジェクト率 40%目標、編集委員会へ担当編集委員対応要請。</p> <p>4. 有料展示、スポンサー募集 6 月末締切、申込受付サイト準備中。小山田記念賞展示他企画展示は 2 月末まとめ。工場見学会有料。</p> <p>5. オンライン参加 1 万円引き設定。</p> <p>6. コロナ対応で 2 会場案とし、MT 投稿掲載費用等収支見直し実施。</p>
ICAA18 第 12 回組織委員会、第 15 回実行委員会	4 年 2 月 22 日	<p>1. プログラム WG・アブストラクト編成 SWG</p> <p>2. 展示・エクスカージョン進捗</p> <p>3. ハイブリッド開催予算</p>	<p>1. 欧州講演時間を 8-13 時とする 6 会場プログラム編成時間枠決定。WEB 査読システム利用、担当割付案作成。</p> <p>2. スポンサー募集趣旨書、WEB 申込サイト作成。</p> <p>3. 予算 3 案での MT 投稿掲載費用、協賛金・機器展示収入計上方針確認。</p>
ICAA18 第 16 回実行委員会	4 年 3 月 29 日	1. プログラム WG・アブストラクト編成 SWG	<p>1. アブストラクト査読担当者にセッションプログラム案作成、取りまとめ役依頼。査読担当リスト提示、6 月 7 日、遅くとも 17 日査読完了。フォーマット著者表記、査読チェック表修正。4 月に査読依頼周知。</p>

		<p>2. 論文誌編集 WG</p> <p>3. 会場・講演会・パンケット WG</p> <p>4. 展示・エクスカージョン進捗</p> <p>5. ウェブサイト更新、寄付</p>	<p>2. 4 月中に申込 123 件の担当編集委員案作成。12 月刊行に合わせ、9 月末掲載可判断。刊行遅れもあり。ECR 対象者の国際委員への論文送付等確認。</p> <p>3. 会場担当案、パンケット式次第、ポスター発表会場案。ICAA19 案内時間検討。</p> <p>4. 展示はハイブリット展示準備中。HP スポンサー募集掲載。日本企業展示、広告掲載案内準備中。工場見学受入先打診、観光 20 名プラン 5 月 1 日 HP 掲載。</p> <p>5. 更新箇所確認、富山県アルミ産業協会 10 万円寄付。</p>
--	--	--	---

(6)大会運営委員会

会議名	開催令和年月日	議事事項	会議の結果
第 8 回	3 年 4 月 23 日	<p>1. 第 140 回春期大会準備</p> <p>①大会 WEB ページ準備状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラム内容(大会・懇親会挨拶) ・リハーサル日程 ・機器カタログ展示出展企業要望 講演会場アナウンス他 ・軽金属奨学会要請「軽金属奨学会特別奨学生」応募数増加対策、談話室テーブル、奨学会サイト作成 <p>②企業 WG 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業研究会 ・企業招待セッション <p>③大会運営 WG 報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マニュアル 座長、会場係、講演発表(一般、P)、聴講者(一般、P)、Remo(懇親会、談話室) ・会場係担当 学生アルバイト依頼 ・140 回大会アンケート案 ・英語ポスター審査一本化決定 <p>2. 引継事項</p> <p>3. その他</p> <p>①第 141 回秋期大会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・70 周年記念式典 ・ドクターセッション ・高校生ポスター発表 ・軽金属奨学会セッション企画 <p>②今後の大会日程</p>	<p>1. 準備状況を確認。</p> <p>①WEB ページ 21 日オープン、内容確認。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Remo は 4 月 26-28 日、ポスターは 5 月 11-12 日。 ・休憩時間のオートスライドショー予定。 ・奨学会テーブル、サイト作成 <p>②下記報告を確認。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12 社参加。アンケート実施。 ・2 社講演。 <p>③下記報告を確認。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種マニュアルを確認。 ・山梨大学で対応。 ・前回アンケートに Remo 追加。 ・正式決定。 <p>2. 委員長、WG 長案を確認</p> <p>3. 下記報告を確認。</p> <p>①各イベント内容を確認。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金曜表彰式時に開催。 ・男女共同参画委員会案確認。 ・甲府近隣高校生参加募集。 ・奨学生発表セッション開催。 <p>コロナ対応で早期のオンライン開催決定を理事会に上申を決定。</p> <p>②142 回:関西支部、143 回:関東支部当番で日程未定。</p>
第 1 回	3 年 8 月 11 日	<p>1. 引継事項と今期活動について</p> <p>2. 企業 WG 報告</p> <p>3. 運営 WG 報告</p> <p>4. 第 140 回春期大会の決算および反省点</p> <p>5. 第 141 回秋期大会の開催計画</p> <p>6. 第 142 回春期大会について</p> <p>1)開催計画概要、予算、実行委員会名簿</p> <p>2)テーマセッション募集日程</p>	<p>1. 引継事項確認、WG メンバー承認。</p> <p>2. 140 回春期大会リクルートアンケート結果。学生参加増加策検討。第 141 回秋期大会の招待講演は日本アルミニウム協会賞授賞企業 3 社を予定。</p> <p>3. 140 回春期大会アンケート結果と対応策。サポート係強化。プラットフォームを簡易版に、懇親会は Zoom に変更。金曜行事(表彰、市民フォーラム)中止。</p> <p>4. 決算および申送事項について報告。</p> <p>5. 山梨の特徴を生かした実行委員会企画検討。</p> <p>6. 資料に基づき報告、確認。対面開催、金曜行事開催場所は 2 案、3 密対策でポスターセッションは別日にオンライン開催も検</p>

		<p>7. 男女共同参画委員会報告</p> <p>8. 第 141 回大会プログラム編成について</p>	<p>討。</p> <p>7. 第 141 回大会で「職場で活躍する博士」セッション開催につき、単独講演時間枠、一般公開要請。若手の会、女性会員の会も大会参加者以外参加。</p> <p>8. 5 会場プログラム編成。座長、ポスター審査員案を決定。</p>
第 2 回	3 年 10 月 20 日	<p>1. 第 141 回秋期大会開催準備状況</p> <p>①オンライン開催 HP</p> <p>②マニュアル</p> <p>③会場係役割</p> <p>④大会 WEB ページ Zoom 設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軽金属企業研究会 ・若手の会、女性会員の会 ・懇親会 ワイン企画 <p>⑤優秀ポスター発表賞審査</p> <p>⑥オンライン開催アンケート</p> <p>2. 企業 WG 報告</p> <p>①リクルート企画</p> <p>②企業セッション企画</p> <p>3. 運営 WG 報告</p> <p>①ポスター作成マニュアル作成</p> <p>4. その他</p> <p>①第 142 回春期大会関連事項</p> <p>②大会規程改定</p>	<p>1. 下記報告。</p> <p>①10 月 4 日公開</p> <p>②聴講者、座長、発表者用作成。リハーサル 60 分 3 回を計画。</p> <p>③山梨大学学生アルバイトに依頼。</p> <p>④下記報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・談話室、懇親会に会場設置。 ・男女セッション含め、一般公開。 ・ワイン取り寄せ申込受付。 <p>⑤WEB 受付、審査結果送付。</p> <p>⑥アンケート案修正。</p> <p>2. 企業 WG 報告</p> <p>①学生参加増加策、アンケート案。</p> <p>②141 回は日本アルミニウム協会賞受賞の 3 件講演。142 回はサステナブル、EV を予定。</p> <p>3. 運営 WG 報告</p> <p>①142 回用にマニュアル、フォーマット作成。</p> <p>4. 下記報告</p> <p>①懇親会中止、ポスターセッションオンライン開催、他は対面開催案を見直し、11 月号会告案作成。</p> <p>②139 回より実施。</p>
第 3 回	4 年 2 月 4 日	<p>1. 第 141 回秋期大会の決算、アンケート</p> <p>2. 第 142 回春期大会のオンライン開催計画</p> <p>3. 第 143 回秋期大会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催計画概要、予算、実行委員会名簿 <p>4. 企業 WG 報告・討議</p> <p>5. 運営 WG 報告・討議</p> <p>1)オンライン開催改善</p> <p>2)ポスター作成方法マニュアル作成</p> <p>6. 男女共同参画委員会 142 回春期大会要請</p> <p>7. 第 142 回大会プログラム編成について</p> <p>8. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期ビジョン ・生産技術関連講演セッション、イベント検討 <p>・オンライン化アンケート結果</p>	<p>1. 決算、アンケート結果について報告。</p> <p>2. オンライン開催への変更を理事会上申。大会 WEB サイト、サポート見積・スケジュール、実行委員会依頼事項確認。</p> <p>3. 第 143 回秋期大会実施内容決定。資料に基づき報告、確認。</p> <p>4. 第 142 回企業招待講演は「サステナブル」テーマで実施。リクルート企画は当日面談 Zoom 用意不要。</p> <p>5. WG 各担当から報告、討議。</p> <p>1)会場係マニュアル改定。</p> <p>2)テンプレート作成し、案内。。</p> <p>6. イベント一般参加、男女セッションの単独開催時間枠決定。</p> <p>7. プログラム編成。座長、ポスター審査員案を決定。</p> <p>8. 以下報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員長私案説明。 ・企業招待講演で実施。その後、講演分類変更により一般セッション化。 ・オンラインの有効活用を検討。

(7)研究委員会

会議名	開催令和年月日	議事事項	会議の結果
第 7 回	3 年 4 月 13 日	<p>1. 研究部会期末報告</p> <p>2. 新研究部会報告</p> <p>3. 令和 2 年度事業報告、決算</p> <p>4. 日本アルミニウム協会とのロードマップ作成</p> <p>5. 研究部会紹介記事</p> <p>6. 委員会出席率</p>	<p>1. 15 研究部会報告。</p> <p>2. 2 部会報告</p> <p>3. 資料に基づき報告。</p> <p>4. 6 月以降担当決定。</p> <p>5. 4 月会誌掲載会誌、掲載予定確認。</p> <p>6. 出席率向上を確認。</p>

		7. 引継事項 8. 部会入会手続き、部会費徴収について	7. 委員長案確認。 8. 手続き連絡、6月部会費徴収。
第1回	3年10月8日	1. 引継事項 1) 研究部会フォロー体制、副部長確認 2) 部会紹介 2. ロードマップについて 3. 部会中間報告(7部会) 4. 決算報告 5. 研究部会新設、継続提案スケジュール	1. 引継事項、部会フォロー体制、副部長選任について確認。 2. 日本アルミニウム協会ロードマップのサイエンスロードマップ担当、5分類担当選任。1次案作成要請。 3. 各部会活動内容確認と要望事項。 4. 8月末決算結果報告。 5. 部会新設スケジュール確認、検討WGに新設部会提案要請。
第2回	3年12月21日	1. 研究部会新設 2. 研究部会延長申請 3. ロードマップ進捗 4. 令和4年度予算作成依頼 5. オンライン化アンケート 6. 研究部会中間報告	1. 7000系アルミニウム合金の時効硬化挙動研究部会設置承認。 2. 高強度アルミニウム合金研究部会1年延長承認。 3. サイエンスロードマップ1次案提出。マグネシウム、チタンのサイエンスロードマップは別途作成要請。 4. 2月初旬決算見込み、予算提出。 5. 研究委員会、研究部会回答まとめ。研究部会へのオンライン会議ツール貸出検討。 6. 7研究部会報告

(8)支部長会

会議名	開催令和年月日	議事事項	会議の結果
第1回	3年6月14日	1. 令和2年度支部収支報告書および令和3年度支部収支予算書および第1四半期決算について 2. 中堅企業支援活動 3. 今後の開催予定地 4. 年間表彰スケジュール 5. 70周年記念事業報告のお願い 6. 会誌支部特集	1. 事務局より提示した資料確認。 2. 令和2年度実績報告と令和3年度活動要請。 3. 2022年第142回春期大会、143回秋期大会予定地を確認。 4. 事務局提示資料を確認。 5. 特設HP掲載記事提出を要請。 6. 九州支部2021年7月掲載、関東支部2022年7月号掲載を確認。
第2回	3年10月28日	1. 令和3年度支部第2四半期決算 2. 令和4年度支部費配賦額 3. 支部70周年記念事業実施状況・計画 4. 今後の開催予定地 5. 軽金属希望の星賞・企業奨励賞について 6. 年間表彰スケジュール 7. その他 ・春秋大会での高校生ポスター発表 ・高橋記念賞応募増加策	1. 事務局より提示した決算資料確認。 2. 配賦額案を検討依頼。 3. 各支部より状況報告。 4. 143回秋期大会(東京工業大学)、144回春期大会(香川大学)、145回秋期大会(都立大)、第146回春期大会(東海支部担当)を決定。 5. 支部推薦枠提示。 6. 2022年度スケジュール連絡。 7. 報告に基づき、議論。 ・春期は高校生卒業のため困難、実行委員会役割もあり難しいとの回答を総務委員会に戻す。 ・軽圧5社に候補者リスト作成依頼、維持会員企業への本部アナウンス実施。
第3回	4年2月24日	1. 支部令和3年度決算見込み・令和4年度予算 2. 長期ビジョン 3. その他 ・支部長交代 ・支部活動期末報告・活動計画作成依頼	1. 資料確認と各支部報告。 2. 支部事業について、課題抽出と対応策協議。支部会員規模に応じた活動、大会当番ローテーションを検討。 3. 以下報告。 ・東海支部交代。 ・3月11日提出要請。

		・今後の春秋大会開催予定地・日程について	・145回、146回日程連絡要請。
--	--	----------------------	-------------------

(9) 参与会

会議名	開催令和年月日	議事事項	会議の結果
第31回	3年7月7日 延期	1. 見学会の実施 2. 講演会の実施 3. 委員会の開催	1. IHI「つなぐラボ」、「グループ横浜ラボ」 2. 「オープンイノベーション推進に関する事業紹介」 3. 参与会活動について
第32回	3年11月24日	1. 講演会の実施 2. 委員会の開催	1. 「カーボンニュートラルに向けた熱回収」、「2050年カーボンニュートラルへの対策と課題」 2. 参与会活動について

(10) 男女共同参画委員会

会議名	開催令和年月日	議事事項	会議の結果
第8回	3年4月14日	1. 第140回春期大会企画内容確認 ・男女共同セッション 北尾講師案内 ・グーグルフォームアンケート案 ・若手の会、女性会員の会 ・Remo 談話室 デモ 2. 第141回秋期大会 男女共同セッション 3. 仕事・育児両立意識調査アンケート結果 4. 若手の会活性化策 5. 70周年記念事業会告案 ・無意識のバイアス研修 ・シンポジウム・パネルディスカッション 6. その他 ・男女共同参画学協会連絡会の大型アンケート対応 ・夏学2021の件 ・女性会員の会代表世話人交代	1. 資料に基づき報告、内容確認。 2. ドクター講演会、講師6月決定。 3. 大会前に概要公開、その後、開始掲載。 4. 若手の会要請に対応。 5. 報告を確認。 ・9月29日開催。テーマは後日決定。 ・11月11日開催。 6. 下記内容確認。 ・11月実施に参加協力。 ・関委員参加予定。 ・女性会員の会で交代検討
第1回	3年7月16日	1. 委員自己紹介、規程確認 2. 引継事項、今期活動計画 3. 第140回大会 男女セッション開催報告 4. 夏の学校出展内容(8月8-9日) 5. 第141回大会 ドクター支援セッション 6. 70周年記念事業 ・無意識のバイアス研修 ・シンポジウム・パネルディスカッション 7. 仕事と育児アンケート 8. 若手の会、女性会員の会活性化 9. 男女共同参画学協会連絡会	1. 規程内容確認。 2. 活動内容、女性比率データ確認。 3. 資料に基づき報告。 4. 学会・ロールモデル紹介ポスター、動画作成、実験用アルミニウム材提供。 5. 講師2名決定、会告案作成。 6. 各企画準備状況確認。 ・オンライン開催方法を講師と協議。 ・外部講師講演、仕事と育児アンケート結果についての討議内容と決定。 7. 速報結果から問題点を抽出し、活動提案を実施。 8. 企業採用アンケート結果報告、大会会期中の会合への無料参加による参加者増加を計画。 9. 10月9日シンポジウムでの活動紹介ポスター展示決定、担当交代。
第2回	3年10月6日	1. 2021年夏学オンライン報告 2. 無意識のバイアス研修会開催報告 3. パネルディスカッション準備状況 4. 第141回秋期大会イベント準備状況 5. 第142回春期大会 男女共同セッション 6. 若手の会活動活性化・運営見直し 7. 長期ビジョン	1. オンライン開催に参加。ロールモデル紹介、実験室共同開催。 2. 28名参加。アンケート実施。 3. 会告案、維持会員企業へのダイバーシティアンケート結果報告。 4. 大会WEBサイト連絡、一般参加受付。 5. 仕事と育児両立アンケートをテーマに実施。 6. 参加者増加策を検討。企業採用アンケート結果を提出予定。 7. たたき台を議論。あるべき姿を次回提示して、議論継続。

		8. 男女共同参画学協会連絡会関連	8. 10月9日の第19回シンポジウムに3名参加予定。第5回大規模アンケートに回答協力予定。
第3回	4年1月26日	1. パネルディスカッション開催報告 2. 第141回秋期大会イベント開催報告 3. 第142回春期大会 男女共同セッション 4. 男女共同参画学協会連絡会シンポジウム参加報告。 5. 若手の会活動活性化・運営見直し 6. 長期ビジョン 7. 第5回大規模アンケート回答率 8. オンライン化アンケート結果 9. 無意識のバイアス研修会アンケート結果	1. 資料に基づき報告。開催報告記事準備中。 2. 資料に基づき報告。学生参加増検討。 3. 男性学・仕事と育児両立テーマ検討。 4. 資料に基づき報告。データ見える化検討。 5. 研究交流会、研究室・工場見学イベント検討。 6. あるべき姿、ロードマップ案を議論。データ見える化はチェックシート活用。 7. 本会回答率13.8%、114学協会回答。 8. 他委員会同様、概ね好意的な回答。 9. 資料に基づき報告。

(11)組織委員会

会議名	開催令和年月日	議事事項	会議の結果
なし			

[4]許可、認可、承認、証明に関する事項

連絡令和年月日	議事事項	履行状況
なし		

[5]契約に関する事項

契約締結令和年月日	契約内容	契約先・委託者
なし		

[6]寄付金に関する事項 寄付金支出はなし

[7]主務官庁からの連絡および報告事項

連絡令和年月日	議事事項	履行状況
なし		

[8]その他重要事項 特になし

[9]会員動向

()内は内数

	名誉会員	永年会員	個人会員				合計
			正会員	学生会員	外国人	合計	
令和4年4月1日	48	89	1,391	293	(5)	1,684	1,821
令和3年4月1日	49	94	1,426	264	(5)	1,690	1,833
差引増減	△1	△5	△35	29	-	△6	△12

正会員の内訳

	大学・高専等	公的研究機関	企業等	その他	合計
令和4年4月1日	433	83	836	39	1,391
令和3年4月1日	436	88	867	35	1,426
差引増減	△3	△5	△31	4	△35

特別維持会員・維持会員・年間購読の内訳

	特別維持会員	維持会員	口数								年間購読	
			10	8	6	5	4	3	2	1		合計
令和4年4月1日	5	133	2	0	0	0	1	3	16	111	176	40
令和3年4月1日	5	132	2	0	0	0	1	2	15	112	172	58
差引増減	-	1	-	-	-	-	-	1	1	△1	4	△18

[10]事業報告の附属明細書 事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、附属明細書は作成していない。